

令和5年度入学生 教育課程表 (R 6_2年次)

【A表】

科目 区分		講座 番号	講座名	実施 時期	区分	種別	2年		農学科						畜産学科					
							単位	時間	作物	野菜	花	果樹	茶	農フード	畜フード	肉用牛	酪農	養豚		
教養 科目	全 学 科 共 通	L201	ルピナスの時間Ⅱ	全	必修	実習	1	30	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
		U202	英会話Ⅱ	後	履修	講義	1	15	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
		U203	保健・体育Ⅱ	全	履修	講義	1	15	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
		U204	くらしと法律・経済	前	履修	講義	1	15	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
		P205	英語特別講義Ⅱ	特	選択	講義	1	15	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲		
		P206	小論文演習Ⅱ	前	選択	講義	1	15	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲		
		P207	就職対策Ⅱ	前	選択	講義	1	15	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲		
専 門 科 目	全 学 科 共 通 専 攻 別	M302	アグリビジネスⅡ	全	必修	講義	1	15	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
		R201	インターンシップⅡ	前	必修	実習	1	30	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
		R202	卒業論文	後	必修	講義	4	60	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
		R203	海外農業研修	後	必修	実習	2	60	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
		T206	大型機械操作演習（けん引）	全	選択	講義	2	30	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲		
		T208	教育実習	特	選択	実習	2	60	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲		
		R204	農業生産工程管理Ⅱ	前	必修	講義	1	15	◎	◎	◎	◎	◎			◎	◎	◎		
		S205	農政施策	全	履修	講義	1	15	○	○	○	○	○			○	○	○		
	T207	会社経営Ⅱ（選択）	後	選択	講義	2	30	▲	▲	▲	▲	▲			▲	▲	▲			
農 学 専 門 科 目	専 攻 別	A201	専攻実習Ⅱ（農）	全	必修	実習	15	450	◎	◎	◎	◎	◎							
		A203	スマート農業活用（農）	全	必修	演習	1	15	◎	◎	◎	◎	◎							
		B205	G A P 演習Ⅱ（農）	全	履修	演習	3	45	○	○	○	○	○							
		B207	育種とバイオテクノロジー	全	履修	講義	1	15	○	○	○	○	○							
		B208	法人経営	全	履修	講義	1	15	○	○	○	○	○							
		B209	農業指導演習	後	履修	演習	1	15	○	○	○	○	○							
		C210	農業簿記等資格取得対策Ⅱ	全	選択	講義	1	15	▲	▲	▲	▲	▲							
		A202s	作物の専攻特別実習Ⅱ	全	必修	実習	2	60	◎											
		A202y	施設野菜の専攻特別実習Ⅱ	全	必修	実習	4	120		◎										
		A202h	花きの専攻特別実習Ⅱ	全	必修	実習	4	120			◎									
		A202k	果樹の専攻特別実習Ⅱ	全	必修	実習	4	120				◎								
		A202c	茶の専攻特別実習Ⅱ	全	必修	実習	2	60					◎							
		A204s	作物の栽培管理・営農計画	全	必修	演習	1	15	◎											
		A204y	施設野菜の栽培管理・営農計画	全	必修	演習	1	15		◎										
		A204h	花きの栽培管理・営農計画	全	必修	演習	1	15			◎									
		A204k	果樹の栽培管理・営農計画	全	必修	演習	1	15				◎								
		A204k	茶の栽培管理・営農計画	全	必修	演習	1	15					◎							
		B206s	作物の流通・販売	全	履修	演習	1	15	○											
		B206y	施設野菜の流通・販売	全	履修	演習	1	15		○										
		B206h	花きの流通・販売	全	履修	演習	1	15			○									
		B206k	果樹の流通・販売	全	履修	演習	1	15				○								
		B206c	茶の流通・販売	全	履修	演習	1	15					○							
畜 産 専 門 科 目	専 攻 別	Z201	専攻実習Ⅱ（畜）	全	必修	実習	13	390								◎	◎	◎		
		Z202	専攻特別実習Ⅱ（畜）	全	必修	実習	4	120								◎	◎	◎		
		Z203	スマート農業活用（畜）	全	必修	講義	1	15								◎	◎	◎		
		Z204	育種と繁殖Ⅱ	前	必修	講義	2	30								◎	◎	◎		
		Y209	家畜の衛生と環境	全	履修	講義	1	15								○	○	○		
		Y210	G A P 演習Ⅱ（畜）	後	履修	演習	1	15								○	○	○		
		Y211	畜産指導演習	全	履修	演習	1	15								○	○	○		
		Y212	家畜の解剖	全	履修	講義	1	15								○	○	○		
		Y213	畜産の新技術	全	履修	講義	1	15								○	○	○		
		Y214	畜産物の加工と流通	後	履修	演習	1	15								○	○	○		
		Y205nr	肉用牛・酪農経営コンサルティング	全	履修	講義	1	15								○	○			
		Y205b	養豚経営コンサルティング	全	履修	講義	1	15										○		
		Y206n	肉用牛経営の営農計画	全	履修	演習	1	15								○				
		Y206r	酪農経営の営農計画	全	履修	演習	1	15									○			
		Y206b	養豚経営の営農計画	全	履修	演習	1	15										○		
		Y207n	肉用牛の飼養管理	前	履修	演習	1	15								○				
		Y207r	乳用牛の飼養管理	前	履修	演習	1	15									○			
		Y207b	豚の飼養管理	前	履修	演習	1	15										○		
		Y208	豚の疾病と衛生	全	履修	講義	1	15										○		
		Y302	削蹄講習（2年間履修修）	全	履修	演習	2	30								○	○			
フ ィ ー ド 専 門 科 目	専 攻 別	F201	専攻実習Ⅱ（フ）	全	必修	実習	10	300						◎	◎					
		F202	専攻特別実習Ⅱ（フ）	全	必修	実習	4	120							◎	◎				
		F203	会社経営Ⅱ（フ）	全	必修	講義	2	30							◎	◎				
		F204	食品関連企業実習	後	必修	実習	2	60								◎	◎			
		F205	農業生産工程管理Ⅱ（HCCAP）	前	必修	講義	1	15								◎	◎			
		G206	食品化学Ⅱ	前	履修	講義	1	15								○	○			
		G207	食品製造実習Ⅱ	全	履修	実習	3	90								○	○			
		G208	フードビジネスⅡ	前	履修	講義	1	15								○	○			
		G209	微生物活用Ⅱ	前	履修	演習	1	15								○	○			
		G210	マーケティングⅡ（フ）	全	履修	演習	1	15								○	○			
		G211	新商品開発	前	履修	演習	2	30								○	○			

※◎印は必修、○印は履修、▲印は選択

令和6年度 授業計画書【シラバス】										
科目名	L201	ルピナスの時間Ⅱ		学科名	全学科	学年	2年	学期	全期	
授業の方法	実習		区分	必修	単位数	1	時間数	30	開講時期	4月～3月
科目の概要	農業大学校及び各学科や専攻での活動をより効率的に行うため、地域に向けた活動を通じて、農業人として必要となる知識や技能・技術を学ぶ。									
講師名	農業大学校指導職員、外部講師							実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	農業大学校及び各学科や専攻での活動をより効率的に行うための活動や地域に向けた活動を通じて、人として必要となる基礎知識や技能・技術を習得する。									
使用教材	講師作成資料等									
成績評価	方法	知識／理解 (20点)		態度/技能 (20点)		コミュニケーション (20点)		出席 (40点)		
	基準	状況を判断し、知識を実践にどれだけ適用できるか。論理だけでなく、実際の状況に知識をどのように活かして行くかを判断する。 20……良好 15……概ね良好 (普通) 10……やや劣る 5……劣る		問題解決や仕事に前向きな姿勢を持っているかを判断する。 20……良好 15……概ね良好 (普通) 10……やや劣る 5……劣る		集団生活における円滑な情報共有や意思の疎通を促進し、互いに協調し合える人間性やコミュニケーション力を判断する。 20……良好 15……概ね良好 (普通) 10……やや劣る 5……劣る		出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9		
授業の計画 (授業の回数やスケジュール)										
回	内 容						日付	備 考		
1	R6年度始業式						4月3日			
2	入学式準備及び予行						4月4日			
3	入学式						4月5日			
4	学生交流						4月9日			
5	自治会総会						4月24日			
6	口蹄疫慰霊祭						5月16日			
7	前期「全校集会」						6月3日			
8	法人マッチング準備						6月24日			
9	法人マッチング						6月25日			
10	避難訓練 (火災)							児湯消防		
11	避難訓練 (地震)							児湯消防		
12	交通安全教室						4月24日	高鍋警察署		
13	前期「全校集会」						7月1日			
14	前期「全校集会」、学科集会、大掃除						7月31日			
15	前期「全校集会」、学科集会、大掃除						9月2日			
16	推薦入試準備									
17	後期「全校集会」						10月1日			
18	後期「全校集会」						11月1日			
19	キャリア教育							外部「ハローワーク」		
20	キャリア教育							外部「学び直し支援」		
21	後期「全校集会」						12月2日			
22	一般入試準備									
23	球技大会・収穫祭						12月19日			
24	後期「全校集会」、学科集会、大清掃						12月20日			
25	後期「全校集会」、学科集会、大清掃						1月7日			
26	ひなた総会						1月8日			
27	後期「全校集会」、大清掃						2月3日			
28	年金教室						2月10日	高鍋年金機構		
29	卒業式予行、表彰式						3月7日			
30	卒業式						3月8日			
授業時間外に必要な学修	内容によっては事前準備等。									
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。									

令和6年度 授業計画書[シラバス]										
科目名	U202		英会話II		学科名	全学科	学年	2年	学期	後期
授業の方法	講義		区分	履修	単位数	1	時間数	15	開講時期	9月～1月
科目の概要	基礎的な英語の能力、技能を養う									
講師名	外部講師							実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	海外研修における簡単なあいさつ、日常会話ができるようになる									
使用教材	Nice to meet you									
成績評価	方法	知識(90点)			出席率(10点)			受講態度(減点)		
	基準	インタビューテスト、復習テスト、自己紹介スピーチにより90点満点で評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為 等		
授業の計画(授業の回数やスケジュール)										
回	内 容						時間	備 考		
1	Unit5 Which high school did you go to? Ex. Conversations						1			
2	Unit5 Which high school did you go to? Connected Speech						1			
3	Unit5 Which high school did you go to? まとめ						1			
4	Unit5 Reading 5:The importance of Pronunciation						1			
5	Unit6 Tell me about your family. Example Conversations						1			
6	Unit6 Tell me about your family. Ways of Explaining						1			
7	Unit6 Tell me about your family. まとめ						1			
8	Unit6 Reading 6: Non-Verbal Communication						1			
9	Unit7 What do you do in your free time? Ex. Conversations						1			
10	Unit7 What do you do in your free time? Speaking Practice						1			
11	Unit7 What do you do in your free time? まとめ						1			
12	Unit7 Reading 7: The Escalator of Language Learning						1			
13	Writing Speech: Self-introduction						1			
14	Interview test / Review test						1	試験		
15	Final Speech						1			
授業時間外に必要な学修	毎回の授業の復習を付属の音源を使って行う。また、次週の内容を音源を聴き予習する。									
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。									

令和6年度 授業計画書【シラバス】									
科目名	U203	保健・体育Ⅱ		学科名	全学科	学年	2年	学期	特別
授業の方法	講義・演習	区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	9月～12月
科目の概要	生涯スポーツの実践や健康について、理論と実践を通して学ぶ。								
講師名	農業大学校職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	各スポーツの実践を通じて運動技能を高め、チームに貢献できる能力を養う。 保健では、自らの健康・安全についての理解を深め、健康を保持するための能力を養う。								
使用教材	農大施設 講師の準備する教材								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）		受講態度（減点）		
	基準	講義終了後のレポートにより評価する。 演習状況も知識の一部として勘案する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為 等		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1	各スポーツの基本技術習得						1		
2	各スポーツの基本技術習得						1		
3	各スポーツの基本技術習得						1		
4	試合形式による各スポーツの実践						1		
5	試合形式による各スポーツの実践						1		
6	試合形式による各スポーツの実践						1		
7	試合形式による各スポーツの実践						1		
8	試合形式による各スポーツの実践						1		
9	試合形式による各スポーツの実践						1		
10	試合形式による各スポーツの実践						1		
11	試合形式による各スポーツの実践						1		
12	試合形式による各スポーツの実践						1		
13	試合形式による各スポーツの実践						1		
14	試合形式による各スポーツの実践						1		
15	生涯を通じる健康についての講話						1		
授業時間外に必要な学修									
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。								

令和6年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	U204	くらしと法律・経済		学科名	全学科	学年	2 年	学期	前期
授業の方法	講義	区分	履修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～6月
科目の概要	・暮らしに大きく関わる法律や身近な経済について学ぶ ・身近な経営動向や農業をとりまく経済情勢について学ぶ								
講師名	外部講師（3 法人より派遣）						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・暮らしに大きく関わる法律と身近な経済について理解させる ・国内及び県内の経済情勢と県内企業（農業法人も含む）の経営動向を理解させる ・農業をとりまく経済情勢について理解させる								
使用教材	講師指定の参考書又は配付資料								
成績評価	方法	知識（9 0 点）			出席率（1 0 点）			学習態度（減点）	
	基準	インタビューテスト、リスニングテストにより70点満点で評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・ 95%以上 1. 0 ・ 90%以上95%未満 0. 9 ・ 80%以上90%未満 0. 8 ・ 70%以上80%未満 0. 7 ・ 70%未満 0			講義中の態度、提出物等の状況により20点を上限に減点する。	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1	農地に関する法律（生産法人、6 次産業化含む）					1			
2	日常生活と法律（売買と契約含む）					1			
3	夫婦と親子の法律					1			
4	職場の法律（マイナンバー含む）					1			
5	法律の基本ルール（国民の義務と権利含む）					1			
6	Ⅰ．経済と景気					1			
7	Ⅱ．世界経済を取り巻く環境					1			
8	Ⅲ．日本経済を取り巻く環境					1			
9	Ⅳ．宮崎県の景気動向					1			
10	Ⅴ．農業を取り巻く環境 試験					1			
11	経営・マーケティング戦略の基本					1			
12～13	生産・流通・販売活動を通じた付加価値活動（ワークショップ①、②）					2			
14	発表（各グループごとに）					1			
15	まとめ、試験（3 0 分）					1			
授業時間外に必要な学修									
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。								

令和6年度 授業計画書〔シラバス〕										
科目名	P205		英語特別講義Ⅱ		学科名	全学科	学年	2年	学期	前期
授業の方法	講義		区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	8月
科目の概要	英文読解、和文英訳、時事英語など英語の理解を深め、編入学試験に対応した英語力を身につける。									
講師名	外部講師							実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	4年制大学編入学試験に対応できる英語力を身につける。									
使用教材	講師が準備した資料									
成績評価	方法	知識（90点）					出席率（10点）		学習態度（減点）	
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為 等		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）										
回	内 容						時間	備 考		
1	英文読解、和文英訳、時事英語						1	夏期休業中に実施 （開催日時は、講師決定後に確定）		
2	英文読解、和文英訳、時事英語						1			
3	英文読解、和文英訳、時事英語						1			
4	英文読解、和文英訳、時事英語						1			
5	英文読解、和文英訳、時事英語						1			
6	英文読解、和文英訳、時事英語						1			
7	英文読解、和文英訳、時事英語						1			
8	英文読解、和文英訳、時事英語						1			
9	英文読解、和文英訳、時事英語						1			
10	英文読解、和文英訳、時事英語						1			
11	英文読解、和文英訳、時事英語						1			
12	英文読解、和文英訳、時事英語						1			
13	英文読解、和文英訳、時事英語						1			
14	英文読解、和文英訳、時事英語						1			
15	試験、解説						1			
授業時間外に必要な学修	TOEICを受験する。									
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。									

令和6年度 授業計画書 [シラバス]									
科目名	P206	小論文演習Ⅱ		学科名	全学科	学年	2年	学期	前期
授業の方法	講義	区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～6月
科目の概要	進学や就職において必要となる文章表現・スピーチ・小論文対策								
講師名	外部講師（文章表現・スピーチ・小論文対策）						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	進学や就職において必要となる文章表現・スピーチ・小論文の書き方を身につける								
使用教材	講師が準備した資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			受講態度（減点）	
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1	文章表現・スピーチ・小論文対策①						1		
2	文章表現・スピーチ・小論文対策②						1		
3	文章表現・スピーチ・小論文対策③						1		
4	文章表現・スピーチ・小論文対策④						1		
5	文章表現・スピーチ・小論文対策⑤						1		
6	文章表現・スピーチ・小論文対策⑥						1		
7	文章表現・スピーチ・小論文対策⑦						1		
8	文章表現・スピーチ・小論文対策⑧						1		
9	文章表現・スピーチ・小論文対策⑨						1		
10	文章表現・スピーチ・小論文対策⑩						1		
11	文章表現・スピーチ・小論文対策⑪						1		
12	文章表現・スピーチ・小論文対策⑫						1		
13	文章表現・スピーチ・小論文対策⑬						1		
14	文章表現・スピーチ・小論文対策⑭						1		
15	文章表現・スピーチ・小論文対策⑮						1		
授業時間外に必要な学修									
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。								

令和6年度 授業計画書 [シラバス]									
科目名	P207	就職対策Ⅱ		学科名	全学科	学年	2年	学期	前期
授業の方法	講義・演習	区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～6月
科目の概要	就職（活動）において必要となるコミュニケーション能力を身につけ、社会一般常識に関する知識を学ぶ								
講師名	外部講師						実務経験のある教員等による授業科目	○	
到達目標	就職活動に必要なコミュニケーション能力と社会一般常識を身につける								
使用教材	SPI対策問題集、講師が準備した資料								
成績評価	方法	知識（70点）			出席率（10点）			受講態度（20点）	
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為 等	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1	就職（活動）に必要なコミュニケーション①					1	4/14(金) 2限		
2	就職（活動）に必要なコミュニケーション②					1	4/14(金) 3限		
3	就職（活動）に必要なコミュニケーション③					1	4/18(火) 2限		
4	就職（活動）に必要なコミュニケーション④					1	4/18(火) 3限		
5	就職（活動）に必要なコミュニケーション⑤					1	4/25(火) 2限		
6	就職（活動）に必要なコミュニケーション⑥					1	4/25(火) 3限		
7	就職試験のための社会一般常識①					1	5/9(火) 2限		
8	就職試験のための社会一般常識②					1	5/9(火) 3限		
9	就職試験のための社会一般常識③					1	5/16(火) 2限		
10	就職試験のための社会一般常識④					1	5/16(火) 3限		
11	就職試験のための社会一般常識⑤					1	5/23(火) 2限		
12	就職試験のための社会一般常識⑥					1	5/23(火) 3限		
13	就職試験のための社会一般常識⑦					1	5/30(火) 2限		
14	就職試験のための社会一般常識⑧					1	5/30(火) 3限		
15	試験					1	※試験 6/6 (火) 3限		
授業時間外に必要な学修									
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。								

令和6年度 授業計画書 [シラバス]									
科目名	M302	アグリビジネスⅡ		学科名	全学科	学年	2年	学期	全期
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	6月～1月
科目の概要	アグリビジネス分野で活躍されている経営者や関係機関の専門家を講師として招聘し、アグリビジネスの最前線について学習する。その中で企業にいたるまでの経緯や経営理念等からアグリビジネスを成功させるためのポイントや手法について学ぶ。								
講師名	外部講師						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	アグリビジネスの現状と課題について理解を深める								
使用教材	講師が準備する資料								
成績評価	方法	知識（70点）			出席率（10点）			学習態度（20点）	
	基準	講義ごとのレポートまたは試験により評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			講義中の態度、提出物により20点を上限として減ずる。	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1	アグリビジネスに関する講話① 児湯農林振興局次長 戸高玲子 氏						2		
2	アグリビジネスに関する講話② 桑原農園 桑原慎太郎 氏						2		
3	アグリビジネスに関する講話③ pioneer pork 代表 有方 草太郎 氏						2		
4	アグリビジネスに関する講話④ Synergy farm 西岡征志郎 氏						2		
5	アグリビジネスに関する講話⑤ （一社）みやぎん経済研究所 野崎貴士 氏						2		
6	アグリビジネスに関する講話⑥ （株）JAMPS 山本大輔 氏						2	調整中	
7	アグリビジネスに関する講話⑦ （有）新福青果 代表取締役社長 新福太郎 氏						2	調整中	
8	アグリビジネスレポート						1	調整中	
9									
10									
授業時間外に必要な学修									
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。								

令和6年度 授業計画書[シラバス]									
科目名	R201	インターンシップⅡ		学科名	全学科	学年	2年	学期	前期
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	1	時間数	30	開講時期	7月中下旬
科目の概要	農業の業種での職業体験 (農業とともに地域産業を支えている水産業や林業、現場と行政をつなぐ県の出先事業所等での研修)								
講師名	県出先事務所職員、JAみやざき地区本部担当職員 講話「マナーアップ講座」And Rey 滝 礼子 氏					実務経験のある教員等による授業科目		指導は実務経験のある職員に限定する。	
到達目標	出身地(地域)における組織・団体の果たす役割をを理解するとともに、柔軟な人間関係の構築や社会に通用する知識・スキル・スタンス(意識)を学び、自らのキャリア形成に繋げる。 また、研修をとおして、キャリアデザインの幅を広げ、望ましい職業観・勤労観を身につける。								
使用教材	各指導者が準備する資料等								
成績評価	方法	研修日誌 (30点)	研修報告書 (10点)	報告会(10点)	研修評価書(30点)		出席(20点)		
	基準	S(特に良)30点 A(良い)25点 B(普通)20点 C(やや不)15点 D(不足)10点 E(未提出)0点	S(特に良)10点 A(良い)8点 B(普通)6点 C(やや不)4点 D(不足)2点 E(未提出)0点	S(特に良)10点 発表者 A(良い)8点 B(普通)6点 C(やや不)4点 D(不足)2点 E(欠席)0点	※研修先の採点による。		出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・90%未満………未履修		
授業の計画(授業の回数やスケジュール)									
回	内 容					時間	備 考		
1	インターンシップⅡ 事前指導①「講話」					2	7月16日5－6限		
2	インターンシップⅡ 事前指導②心得					1	7月19日1限		
3～6 (4日間)	インターンシップⅡ 実習 〔1日目〕 ・研修先の事業概要について学ぶ。 ・実習や見学をとおして幅広い分野に関する知識や技術を学ぶ。 〔2～4日目〕 ・実習や見学、講師等との意見交換をとおして、現場の実務について情報を収集する。また、実務のノウハウを会得する。					24	7月22日～7月25日		
7	インターンシップⅡ 発表会					3	7月30日1－3限		
授業時間外に必要な学修	研修日誌の記入及び研修報告書の作成								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事業がある場合は教務学生課へ申し出ること。 その後、別途通知する。								

令和6年度 授業計画書 [シラバス]

令和6年度 授業計画書〔シラバス〕									
科目名	R202	卒業論文（農）		学科名	農学科	学年	2年	学期	後期
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	4	時間数	60	開講時期	11月～2月
科目の概要	データ整理に基づいた卒業論文を作成する。								
講師名	・農業大学校指導職員 ・総合農業試験場茶業支場職員（茶専攻）						実務経験のある教員等による授業科目	○	
到達目標	卒業論文に取り組んだ動機や実施内容を整理し、調査結果から成果を導きだし卒業論文を提出する。								
使用教材	各指導者が準備する資料								
成績評価	方法	テーマ設定（10点）	研究内容（20点）	データ整理（20点）	論点整理（20点）	自主的取組（30点）			
	基準	課題の背景が整理されているかを評定する。 A（良い）10点 B（普通）5点 C（悪い）3点	課題設定と実施内容の整合性がとれているかを評定する。 A（良い）20点 B（普通）15点 C（悪い）10点	調査データが記録され、データの分析ができていないかを評定する。 A（良い）20点 B（普通）15点 C（悪い）10点	調査結果やまとめ、残された課題など論点が整理できているかを評価する。 A（良い）20点 B（普通）15点 C（悪い）10点	課題設定から論点整理まで自主的・主体的にできているかを評定する。 A（良い）30点 B（普通）20点 C（悪い）10点			
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1～2	卒業論文の作成に当たっての注意（講義）						2	農業大学校指導職員	
3～60	卒業論文の作成（演習）						58	総合農業試験場茶業支場職員（茶専攻）	
授業時間外に必要な学修	卒業論文の作成								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は再作成させる								

令和6年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	R202	卒業論文			学科名	畜産学科	学年	2 年	学期	後期
授業の方法	講義・実習		区分	必修	単位数	4	時間数	6 0	開講時期	9 月～1 月
科目の概要	プロジェクト活動についてデータ整理を行い、卒業論文を作成する									
講師名	農業大学校指導職員							実務経験のある教員等 による授業科目	○	
到達目標	プロジェクト活動に取り組んだ動機、調査方法および成果を整理した卒業論文を提出する									
使用教材	各指導者が準備する資料									
成績評価	方法	テーマ設定（1 0 点）		研究内容（2 0 点）		データ整理（2 0 点）		論点整理（2 0 点）		自主的取組（3 0 点）
	基準	課題の背景が整理されているかを評定する。		課題設定と実施内容の整合性がとれているかを評定する。		調査データが記録され、データの分析ができているかを評定する。		調査結果やまとめ、残された課題など論点が整理できているかを評価する。		課題設定から論点整理まで自主的・主体的にできているかを評定する。
		A（良い） 1 0 点 B（普通） 5 点 C（悪い） 3 点		A（良い） 2 0 点 B（普通） 1 5 点 C（悪い） 1 0 点		A（良い） 2 0 点 B（普通） 1 5 点 C（悪い） 1 0 点		A（良い） 2 0 点 B（普通） 1 5 点 C（悪い） 1 0 点		A（良い） 3 0 点 B（普通） 2 0 点 C（悪い） 1 0 点
授業の計画（授業の回数やスケジュール）										
回	内 容							時間	備 考	
1～2	卒業論文の作成に当たっての注意							2	講義	
3～6 0	卒業論文の作成							5 8	実習	
授業時間外に必要な学修	卒業論文の作成									
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は再作成させる。									

令和6年度 授業計画書〔シラバス〕									
科目名	R202	卒業論文(フ)		学科名	全学科 フードビジネス専攻	学年	2年	学期	後期
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	4	時間数	60	開講時期	11月～1月
科目の概要	フードビジネスに関する研究テーマを自ら設定し、テーマに即した調査や実証等の研究を行うと共にプロジェクト活動として発表し、研究報告書として卒業論文にまとめる。								
講師名	農学科 フードビジネス専攻 畜産学科フードビジネス専攻						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	学生が、主体的にフードビジネスに関するプロジェクトテーマを設定し、自らの実施計画、進行管理を行い、実証活動をまとめプロジェクト活動の発表を行う。また、研究報告書を作成することにより、課題解決に向けた一連のスキルを習得することを到達目標とする。								
使用教材	フードビジネス専攻で配布された資料、各自テーマに沿った図書や文献等								
成績評価	方法	テーマ設定（10点）	研修内容（20点）	データ整理（20点）		論点整理（20点）		自主的取組（30点）	
	基準	学生が主体的にフードビジネスに関するテーマを設定し計画を立てることが出来る。	計画にそった実習や実験を自ら進行管理を行い、文献やインターネット等の情報を活用し、研究を進めることができる。	データ整理の手法は適切であるか。プロジェクト発表内容・態度についても評価する。		実験データや文献等を活用し、論点を整理した論文となっているか。		意欲的に研究に取り組めたか。	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1～6	テーマ設定、テーマに関する基礎調査						6		
7～9	調査まとめ・研究方法の確定						3		
10～40	調査および実証						31		
41～50	プロジェクト活動の発表						10		
51～60	卒業論文の作成						10		
授業時間外に必要な学修	シラバス上の1～40回は、1年生後期から2年生前期の専攻実習において、プロジェクト活動の時間を設定し、その取り組みについても評価に反映する。プレゼンテーション資料作成や中間発表、最終発表会、論文にまとめる時間として11月～1月の60時間とする。日頃から、自身の研究に関連する情報について、図書や統計データ等、調査事例や卒業論文などについて研究する。また、プロジェクト活動のためのスキルを向上させるため、プレゼンテーション能力の向上に向けた自主学習を実施する。								
再試験及び補習対象の実施基準	補講や再試験は実施しない。								

令和6年度 授業計画書 [シラバス]									
科目名	R203	海外農業研修		学科名	全学科	学年	2年	学期	後期
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	2	時間数	60	開講時期	1月末
科目の概要	国内の気候や風土が異なる各地域の産地や流通視察等を通して、農業の実態やアグリビジネスの現状について学習し、今後の就農計画に役立てる。また、現地の方との交流や体験を通して、経営に関する視点を身につけるとともに、社会人としての視野を広げる機会とする。								
講師名	農業大学校職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	研修を通じて経営に関する視点を身につけ、社会人としての視野を広げる。また、研修成果を今後の就農計画に役立てる。								
使用教材	研修のしおり								
成績評価	方法	研修報告書（70点）			出席率（30点）		学習態度（減点）		
	基準	・提出 提出有り：40点 提出無し：0点 ・内容※提出のみ採点 A（良い）30点/6日 B（普通）15点/6日 C（悪い）8点/6日			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		研修中の態度、提出物により30点を上限として減ずる。		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1回	事前指導① 研修目的 研修内容等					1時間			
2回	事前指導② 視察先全般に関する業者説明					1時間			
3回	事前指導③ 出発前確認事項等					1時間			
4～12回	事前調査④ 研修先事前調査					9時間			
13～54回	国内研修 関西から関東					36時間	6時間×6日		
55～60回	報告書作成					12時間			
授業時間外に必要な学修	研修報告書の作成								
再試験及び補習対象の実施基準	やむを得ない事情により海外農業研修に参加できない場合。								

令和6年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	T206	大型機械操作演習		学科名	全学科	学年	2	学期	全期
授業の方法	講義、演習	区分	選択	単位数	2	時間数	30	開講時期	9～12月
科目の概要	道路交通法に関する講義、トラクターの操作実演、宮崎県運転免許試験場より出張試験。								
講師名	農業大学校指導職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	道路交通法に関するトラクターの運転技術を習得。								
使用教材	なし								
成績評価	方法	知識（70点）			学習態度（20点）			出席率（10点）	
	基準	各項目ごとに実技試験にて理解度を評価する。			受講態度をA～Cの3段階で評価。 A：興味関心を持って積極的に受講している(20点) B：周囲に迷惑をかけることなく受講している(10点) C：居眠り、スマホ操作等により講義に集中していない(0点)			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1	トラクターの操作方法及び運転実習						2時間		
2	〃						2時間		
3	〃						2時間		
4	〃						2時間		
5	免許試験コースの説明、技能コースの説明及び運転実技						2時間		
6	〃						2時間		
7	〃						2時間		
8	〃						2時間		
9	〃						2時間		
10	〃						2時間		
11	〃						2時間		
12	免許試験コースの運転練習及び評価						2時間		
13	〃						2時間		
14	〃						2時間		
15	〃						2時間		
授業時間外に必要な学修	なし								
再試験及び補習対象の実施基準	なし								

令和6年度 授業計画書〔シラバス〕									
科目名	T208	教育実習		学科名	農学科 畜産学科	学年	2 年	学期	特別
授業の方法	実習	区分	選択	単位数	2	時間数	60	開講時期	年間
科目の概要	将来、実習助手を目指す学生が教育職の業務を実践的に学びながら、自己の適性を理解する								
講師名	農業系高校の実習助手教員							実務経験のある教員等による授業科目	○
到達目標	農業高校の実習助手の実務を体験しながら、自己の適性を理解する。また、専門性のレベルを確認し、今後の学習の一助とする。								
使用教材	各指導者が準備する資料等								
成績評価	方法	研修日誌（20点）		研修報告書（30点）		研修評価書（30点）		出席（20点）	
	基準	・ 内容 A（良い）20点 B（普通）10点 C（不足）5点		・ 提出 提出有り：10点 提出無し：0点 ・ 内容※提出のみ採点 A（良い）20点 B（普通）10点 C（不足）5点		※研修先の採点による。		出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・ 95%以上 1.0 ・ 90%以上95%未満 0.9 ・ 80%以上90%未満 0.8 ・ 80%未満 0	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1～60	教育実習受入校の計画による						60	実習期間は2週間	
授業時間外に必要な学修	研修日誌の記入及び研修報告書の作成								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事業がある場合は教務学生課へ申し出ること。その後、別途通知する。								

令和6年度 授業計画書 [シラバス]									
科目名	R204	農業生産工程管理Ⅱ		学科名	畜産学科	学年	2年	学期	前期
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	6月～7月
科目の概要	・農業生産において、消費者から信頼される安全・安心な農産物を提供する手法としてGAPの考え方を学ぶ。								
講師名	外部講師、農業大学校職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・農業生産工程管理（GAP）の考え方を理解させ、具体的なリスク管理を習得する。 ・GAP維持・更新審査にて対応できる知識を習得する。								
使用教材	・講師準備資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）		受講態度（減点）		
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為 等		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1	JGAPの概要①					1	外部講師		
2	JGAPの概要②					1			
3	JGAP畜産 管理点と適合基準の解説①					1			
4	JGAP畜産 管理点と適合基準の解説②					1			
5	JGAP畜産 管理点と適合基準の解説③					1			
6	JGAP畜産 管理点と適合基準の解説④					1			
7	JGAP畜産 管理点と適合基準の解説⑤					1			
8	JGAP畜産 管理点と適合基準の解説⑥					1			
9	JGAP畜産 管理点と適合基準の解説⑦					1			
10	JGAP畜産 管理点と適合基準の解説⑧					1			
11	JGAP畜産 管理点と適合基準の解説⑨					1			
12	JGAP畜産 管理点と適合基準の解説⑩					1			
13	JGAPにおけるリスク管理・評価					1			
14	JGAP認証について					1			
15	試験					1	農業大学校職員		
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則して再試験は実施しない。								

令和6年度 授業計画書 [シラバス]										
科目名	R204		農業生産工程管理Ⅱ		学科名	農学科	学年	2年	学期	前期
授業の方法	講義・演習		区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	6月～9月
科目の概要	農業生産において、消費者から信頼される安全・安心な農産物を提供する手法としてGAPの考え方を学ぶ。									
講師名	日本GAP協会公認講師（ASIA GAP上級指導員） 農業大学校指導職員							実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・農業生産工程管理（GAP）の考え方を理解させ、具体的なリスク管理を習得させる。 ・GAP維持・更新審査にて対応できる知識を習得させる。									
使用教材	講師準備資料									
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			学習態度（減点）		
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			講義中の態度、提出物により20点を上限として減ずる。		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）										
回	内 容						時間	備 考		
1	GAPの基礎①						6/14（金）	学識経験者		
2	GAPの基礎②						13:10-15:20			
3	GAPの認証と導入						6/21（金）			
4	ひなたGAPの概要						13:10-15:20			
5	リスク分析の考え方						6/28（金）			
6	生産工程におけるリスク分析						13:10-15:20			
7	農産物取り扱い工程におけるリスク分析						7/5（金）			
8	労働安全のリスク分析						13:10-15:20			
9	ひなたGAPチェックリストの解説①						7/12（金）			
10	ひなたGAPチェックリストの解説②						13:10-15:20			
11	GAP現地研修（農大校ほ場）						7/19（金）			
12	GAP現地研修（農大校ほ場）						13:10-15:20			
13	認証制GAPの解説①						7/26（金）			
14	認証制GAPの解説②						13:10-15:20			
15	試験						7/29（月） 8:50-9:50	農業大学校指導職員		
授業時間外に必要な学修	特になし									
再試験及び補習対象の実施基準	原則して再試験は実施しない									

令和6年度 授業計画書〔シラバス〕

科目名	S205	農政施策		学科名	農学科	学年	2 年	学期	全期
授業の方法	講義	区分	履修	単位数	1	時間数	15	開講時期	10月～3月
科目の概要	本県農業の長期展望、担い手、G A P，農産物流通、販売などの現状と課題、主要施策及び J A グループの取組内容等について広く学習する。								
講師名	県庁農政水産部担当課担当者 民間企業担当者						実務経験のある教員等による授業科目		
使用教材	講師作成資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			学習態度（減点）	
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・ 95%以上 1.0 ・ 90%以上95%未満 0.9 ・ 80%以上90%未満 0.8 ・ 70%以上80%未満 0.7 ・ 70%未満 0			講義中の態度、提出物により20点を上限として減ずる。	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1	本県農業・農村の現状 宮崎県第八次農業・農村振興長期計画試験①						2	県庁農政水産部担当課	
2									
3	本県の農業担い手の確保と育成対策試験②						2	県庁農政水産部担当課	
4									
5	本県の畑かん営農の現状、振興対策及び水利用試験③						2	県庁農政水産部担当課	
6									
7	本県のG A P の取組について 現状、課題、振興対策試験④						2	県庁農政水産部担当課	
8									
9	J A 営農指導の現状と取り組み、営農指導員の活動について試験⑤						2	民間企業	
10									
11	本県の農畜産物流通、及び地域卸売市場における取引の現状と課題、対策試験⑥						2	県庁農政水産部担当課	
12									
13	流通・消費動向について 市場取引の方法と機能・販売形態について試験⑦						3	民間企業	
14									
15									
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として再試験は実施しない								

令和6年度 授業計画書[シラバス]									
科目名	T207 F203	会社経営Ⅱ (フード必修・他選択)		学科名	全学科 フードビジネス	学年	2年	学期	全期
授業の方法	講義	区分	選択(フ以外) 必修(フ)	単位数	2	時間数	30	開講時期	4～1月
科目の概要	農大の模擬会社を教材に、会社経営計画や販売計画などを学ぶ。								
講師名	農学科 フードビジネス専攻 畜産学科 フードビジネス専攻 外部講師						実務経験のある教員 等による授業科目		
到達目標	・会社経営に関する基礎知識を身につける。 ・模擬会社の運営及び経理について理解する。								
使用教材	講師準備資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席点（10点）		学習態度（減点）		
	基準	学生出資会社の運営に関する意見交換会やグループで行う経営ゲームへの取り組みによる経営知識の習得状況を受講後のレポート内容により評価する。決算書の読み取りなど経理に関する知識の習得状況について評価テストを行い評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		授業中の態度をA・B・Cの3段階で評価し、20点を上限として以下の係数を乗じて減点する。 A：問題のない授業態度 0 B：注意を受けたが改善 0.5 C：改善なし 1.0		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1	学生出資会社に関する各組織ごとの運営方法 今年度の経営目標、 総会資料より						1		
2	模擬会社に関する研究 （経理状況の確認 （各専攻ごと））						1		
3	イベント販売等(農大市他) の準備、運営方法に関する学習						1		
4	模擬会社に関する研究 (契約書類に関すること、販売計画の立て方について)						1		
5	模擬会社に関する各組織の運営方法について						1		
6	模擬会社に関する研究 （模擬会社の概要について）						1		
7～9	模擬会社に関する研究						3		
10	イベント販売等(農大市他) の準備、運営方法に関する学習						1		
11	イベント販売等(農大市他) の準備、運営方法に関する学習						1		
12～14	模擬会社に関する研究						3		
15	R6年（第7期）上半期決算状況について						1		
16	ビジネスマナー①（演習）						1		
17	ビジネスマナー②（演習）						1		
18	外部講師 （講演） ふるさと納税について 高鍋町役場 財政経営課 ふるさと納税担当者						1		
19	【1,2年合同】会社経営について 農大祭に向けた商品ディスプレイの手法、POP作成におけるポイントについて①						1		
20	【1,2年合同】会社経営について 農大祭に向けた商品ディスプレイの手法、POP作成におけるポイントについて②						1		
21	会社経営について(講演) 農大祭に向け参考となる内容 商品ディスプレイの手法、POP作成におけるポイント他 外部講師						1		
22	会社経営について(講演) 農大祭に向け参考となる内容 商品ディスプレイの手法、POP作成におけるポイント他 外部講師						1		
23	会社経営について(講演) 農大祭に向け参考となる内容 商品ディスプレイの手法、POP作成におけるポイント他 外部講師						1		
24	【1,2年合同】 11月農大祭の準備、運営方法について						1		
25	【1,2年合同】 11月農大祭の準備、運営方法について						1		
26	【1,2年合同】 11月農大祭の準備、運営方法について						2		
27	【1,2年合同】 学生出資会社の新役員体制づくり						1		
28	【1,2年合同】 学生出資会社の定時株主総会について						1		
29～30	【1,2年合同、全学生対象】令和5年度 定時株主総会						2		
授業時間外に必要な学修	専攻ごとに販売実績について情報収集を行い、売上向上に向けて研究する。								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として再試、補講は認めない。								

令和6年度 授業計画書【シラバス】										
科目名	A201		専攻実習Ⅱ（農）		学科名	農学科	学年	2年	学期	全期
授業の方法	実習		区分	必修	単位数	15	時間数	450	開講時期	4月～12月
科目の概要	各専攻において栽培する品目の栽培技術の習得、各自のプロジェクト学修に取り組む。									
講師名	農業大学校指導職員 総合農業試験場茶業支場職員（茶専攻） 外部講師（花専攻）							実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	作物専攻において栽培する品目の栽培技術を習得するとともに、各自のプロジェクト品目を選定し、プロジェクト学修を実践する。									
使用教材	講師準備資料									
成績評価	方法	知識（４０点）			技能・技術（４０点）		出席率（２０点）		学習態度（減点）	
	基準	各専攻で栽培する品目の生育や出荷調整について、理解度を評価する。			各専攻で栽培する品目の生育や出荷調整について理解し、プロジェクト学習に積極的に取り組んでいるかをチェックし評定する。		出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0 時間数は日誌の提出をもってカウントする。		各専攻で栽培する品目の生育や出荷調整について、理解度を評価する。	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）										
回	内 容							時間	備 考	
作物、野菜、果樹、茶専攻										
通年	各専攻で栽培する品目の栽培技術の習得 各自のプロジェクト学修品目の選定と調査、生産技術の習得							450	農業大学校職員 茶業支場職員（茶専攻）	
花専攻										
通年	花専攻で栽培する品目の栽培技術の習得 各自のプロジェクト学修品目の選定と調査、生産技術の習得							450	農業大学校職員	
	フラワー装飾技術演習								外部講師	
授業時間外に必要な学修	実習日誌の提出									
再試験及び補習対象の実施基準	原則実施しない									

令和6年度 授業計画書 [シラバス]									
科目名	A203	スマート農業活用(農)		学科名	農学科	学年	2年	学期	全期
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～3月
科目の概要	スマート農機を使いこなすための基本となる植物の生理、光合成や新たに導入した装置の計測データの内容と解析方法を学ぶ。								
講師名	総合農業試験場職員、民間企業担当者 農業者、農業大学校指導職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・データの内容と解析方法を習得させる。 ・卒業後、現場においてスマート農業を実践できる基本的なスキルを習得させる。								
使用教材	講師準備資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			学習態度（減点）	
	基準	試験及びレポートにて理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1	植物の生理現象と園芸施設の複合環境制御について（レポート）						6/10(月)	総合農業試験場 土壌環境部 野崎部長	
2							10:00-12:10		
3	スマート農業の実践における 土づくり、微生物の働きについて（レポート）						6/12（水）	雲海酒造 横山部長	
4							10:00-12:10		
5	アグリネットシステムについて（果樹ハウス）（レポート）						6/28（金）	ネボン(株) 渡辺所長	
6							10:00-12:10		
7	植物の光合成働きと園芸施設の複合環境制御について（講義） 農業大学校の施設園芸ハウス複合環境制御装置データ分析と活用（机上演習）						7/3(水)	富士通 渡邊シニアマネージャー	
8							10:0-12:10		
9	スマート農業の実践 自動収穫ロボット開発及び実証実験ハウス栽培の取り組みについて（レポート）						7/（月）	AGRIST	
10							10:00-12:10		
11	スマート農業の実践 農業経営のスマート化 ・ICTを活用した農業経営管理技術の効率化（レポート）						7/（ ）	農業者	
12							10:00-12:10		
13	園芸施設ハウスの複合環境制御について（レポート）						7/（月）	民間企業	
14							10:00-12:10		
15	試験							農業大学校指導職員	
授業時間外に必要な学修									
再試験及び補習対象の実施基準	原則して再試験は実施しない								

令和6年度 授業計画書 [シラバス]									
科目名	B205	G A P 演 習 II （農）		学科名	農学科	学年	2	学期	全期
授業の方法	演習	区分	履修	単位数	3	時間数	45	開講時期	4月～3月
科目の概要	専攻実習において、G A P 基準書、運営マニュアルの自己点検・改善をとおして、G A P の内容を理解し実践手法を学ぶ。								
講師名	宮崎大学農学部 講師 農業大学校指導職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・ G A P 基準書、運営マニュアルの自己点検、改善方法を習得させる。 ・ G A P 維持・更新審査に対応できる知識を習得させる。								
使用教材	講師準備資料、宮崎県経営管理指針 等								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			学習態度（減点）	
	基準	専攻毎のG A P 基準書、運営マニュアルに即した実践、基準書の自己点検、改善の取り組み、審査対応などG A P 実践・内容の理解度を専攻担当者が評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・ 95%以上 1.0 ・ 90%以上95%未満 0.9 ・ 80%以上90%未満 0.8 ・ 70%以上80%未満 0.7 ・ 70%未満 0			講義中の態度、提出物により20点を上限として減ずる。	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1	G A P 基準書に基づく自己点検①（各専攻毎）						1	農業大学校職員	
2～11	G A P 基準書・マニュアルの作成・見直し（各専攻毎）						10	農業大学校職員	
12～17	G A P 審査受審（ひなたG A P）						6	農業大学校指導職員	
18～19	G A P 審査後改善点自己点検（ひなたG A P）						2	農業大学校指導職員	
20～25	G A P 基準書に基づく自己点検②（各専攻毎）						6	農業大学校指導職員	
26～30	A S I A G A P 内部審査						5	ASIAGAP上級指導員 農業大学校指導職員	
31～33	G A P 基準書に基づく自己点検③（各専攻毎）						3	農業大学校指導職員	
34～35	G A P 基準書に基づく自己点検④（各専攻毎）						2	農業大学校指導職員	
36～41	G A P 審査受審（A S I A G A P）						6	農業大学校指導職員	
42～45	G A P 審査後改善点自己点検（A S I A G A P）						4	農業大学校指導職員	
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則して再試験は実施しない								

令和6年度 授業計画書【シラバス】											
科目名	B207	育種とバイオテクノロジー		学科名	農学科	学年	2	学期	全期		
授業の方法	演習	区分	履修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～3月		
科目の概要	・野菜および花きの品種改良や新品種育成及び品種登録や種苗法について学ぶ。										
講師名	総合農業試験場 野菜部・花き部職員 農業大学校指導職員						実務経験のある教員 等による授業科目				
到達目標	・育種の方法について習得させる。 ・種苗法に関する知識を習得させる。										
使用教材	講師準備資料、宮崎県経営管理指針 等										
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			学習態度（減点）			
	基準	試験及び作成した資料により、 理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた 点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			講義中の態度、提出物により 20点を上限として除する。			
授業の計画（授業の回数やスケジュール）											
回	内 容						時間	備 考			
1	新品種の作出、品種登録、種苗法 農業試験場で作出された品種と育成 試験①						3	総合農業試験場 職員			
2											
3											
4	野菜の新品種と育成 農業試験場で作出された品種と育成 試験②						3	総合農業試験場 職員			
5											
6											
7	実験器具・実験機器・設備類の操作方法 手指の洗浄						3	農業大学校指導職員			
8	培地の作成 （MS培地・H培地・MT培地他）										
9											
10	実体顕微鏡の使い方						3				
11	培養演習 ①										
12											
13	培養演習 ②						3				
14											
15	評価試験										
授業時間外に 必要な学修	特になし										
再試験及び補 習対象の実施 基準	原則して再試験は実施しない										

令和6年度 授業計画書〔シラバス〕									
科目名	B209	法人経営		学科名	農学科	学年	2年	学期	全期
授業の方法	講義	区分	履修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～9月
科目の概要	・法人経営の仕組みや制度について学ぶ。 ・現地研修において、法人経営の実際を学ぶ。								
講師名	民間企業、社会保険労務士、農業法人 農業大学校 指導職員						実務経験のある教員 等による授業科目		
到達目標	農業法人の仕組みや制度について学習するとともに、県内法人の講義や視察研修を通じて法人経営への理解を深める。								
使用教材	講師準備資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			学習態度（減点）	
	基準	試験及びレポートにて理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			講義中の態度、提出物により20点を上限として減ずる。	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1	農業経営の法人化とメリット						2	民間企業職員	
2	農業法人の種類と設立								
3	宮崎県内の農業法人の状況						2		
4	集落営農の法人化 試験								
5	農業法人における労務管理について						2	社会保険労務士	
6									
7	法人経営の実際（講義）						2	農業生産法人代表	
8									
9	試験						1	農業大学校指導職員	
10	県内先進農業法人調査研修 （研修レポート）						3	県内農業法人 農業大学校指導職員	
11									
12									
13	県内先進農業法人調査研修 （研修レポート）						3		
14									
15									
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則して再試験は実施しない								

令和6年度 授業計画書【シラバス】									
科目名	B209	農業指導演習		学科名	農学科	学年	2年	学期	後期
授業の方法	講義・演習	区分	履修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～3月
科目の概要	2年生がプロジェクト学修に選定した品目の栽培管理について指導できるよう演習する。								
講師名	農業大学校指導職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	2年生がプロジェクト学修に選定した品目の栽培特性や栽培管理を1年生に指導できる。								
使用教材	講師準備資料								
成績評価	方法	知識（80点）				出席率（20点）		学習態度（減点）	
	基準	プロジェクト学修に選定した品目の栽培管理を理解し、1年生に適切に指導できているか評価する。				出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		演習中の態度により20点を上限として減ずる。	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1	農業指導演習方法と注意事項						1		
2	農業指導演習方法と注意事項						1		
3	2年生がプロジェクト選定品目の栽培管理を1年生に指導						1		
4	2年生がプロジェクト選定品目の栽培管理を1年生に指導						1		
5	2年生がプロジェクト選定品目の栽培管理を1年生に指導						1		
6	2年生がプロジェクト選定品目の栽培管理を1年生に指導						1		
7	2年生がプロジェクト選定品目の栽培管理を1年生に指導						1		
8	2年生がプロジェクト選定品目の栽培管理を1年生に指導						1		
9	2年生がプロジェクト選定品目の栽培管理を1年生に指導						1		
10	2年生がプロジェクト選定品目の栽培管理を1年生に指導						1		
11	2年生がプロジェクト選定品目の栽培管理を1年生に指導						1		
12	2年生がプロジェクト選定品目の栽培管理を1年生に指導						1		
13	2年生がプロジェクト選定品目の栽培管理を1年生に指導						1		
14	2年生がプロジェクト選定品目の栽培管理を1年生に指導						1		
15	農業指導演習の反省と助言						1		
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情のある場合はレポート作成とする								

令和6年度 授業計画書【シラバス】									
科目名	C210	農業簿記等資格取得対策Ⅱ		学科名	農学科	学年	2年	学期	全期
授業の方法	講義	区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～3月
科目の概要	学生が受験可能な、農業簿記の資格を取得するために必要な知識を学ぶ。□								
講師名	農業大学校農学科指導職員							実務経験のある教員等による授業科目	
到達目標	農業簿記3級の資格取得に係る6割以上の理解力								
使用教材	講師準備資料、農業簿記検定教科書3級（大原出版）、農業簿記検定問題集3級（大原出版）								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）		学習態度（減点）		
	基準	・試験を実施し、理解度を評価する。 ・資格取得試験を受験し資格取得を目指す。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		講義中の態度、提出物により20点を上限として減ずる。		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1	農業簿記の概要					1	農業大学校指導職員		
2	仕分、収益・費用の記帳、小テスト					1			
3	収益・費用の記帳、流動資産・流動負債					1			
4	仕分・固定資産 小テスト					1			
5	仕分、決算書の作成					1			
6	仕分、決算書の作成 小テスト					1			
7	試験対策① 確認テスト					1			
8	試験対策②					1			
9	試験対策③					1			
10	試験対策④ 模擬試験					1			
11	試験対策⑤					1			
12	試験対策⑥					1			
13	試験対策⑦					1			
14	試験対策⑧					1			
15	試験対策⑨					1			
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	実施しない								

令和6年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	B206y	施設野菜の流通・販売		学科名	農学科	学年	2年	学期	全期
授業の方法	講義・演習	区分	履修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～3月
科目の概要	野菜の流通・販売について実践的に学ぶ。								
講師名	農業大学校指導職員 市場・仲卸関係者、専門店・量販店・直売所関係者						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	国内外における野菜の流通動向及び消費動向について理解 市場・仲卸の役割や販売店の実際について理解								
使用教材	各関係者が準備する資料								
成績評価	方法	研修報告書（80点）			出席率（20点）		学習態度（▲20点）		
	基準	報告書の提出 ・提出あり：50点 ・提出なし：0点 報告書の内容、量等 ・記述内容等が適正 30点 ・記述内容等が普通 15点 ・記述内容等が不十分 5点			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		講義、演習中の態度により20点を上限として減ずる。		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1	国内外の野菜の流通・販売について						1	講義	
2	国内外の野菜の流通・販売について						1	講義	
3	国内外の野菜の流通・販売について						1	講義	
4～9	市場・仲卸の役割と流通の実際						6	視察研修	
10～15	野菜の販売の実際						6	視察研修	
授業時間外に必要な学修	研修報告書の作成								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情のある場合はレポート作成とする								

令和6年度 授業計画書【シラバス】									
科目名	A202	専攻特別実習Ⅱ（農）		学科名	農学科	学年	2年	学期	全期
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	2	時間数	60	開講時期	4月～3月
科目の概要	・各専攻において栽培する品目の栽培技術と鮮度保持技術、出荷調整について学ぶ。 （作物専攻、茶専攻）								
講師名	農業大学校指導職員（作物専攻） 総合農業試験場茶業支場職員（茶専攻）						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	各専攻において栽培する品目の栽培技術を習得するとともに、出荷調整技術を習得する。								
使用教材	講師準備資料								
成績評価	方法	知識（40点）		技能・技術（40点）		出席率（20点）		学習態度（減点）	
	基準	各専攻で栽培する品目の生育や出荷調整について、理解度を評価する。		各専攻で栽培する品目の生育や出荷調整について理解し、プロジェクト学習に積極的に取り組んでいるかをチェックし評定する。		出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0 時間数は日誌の提出をもってカウントする。		講義中の態度、提出物により20点を上限として減ずる。	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
通年	各専攻で栽培する品目の生産技術の習得 出荷調整技術の習得						120	農業大学校職員 茶業支場職員（茶専攻）	
授業時間外に必要な学修	実習日誌の提出								
再試験及び補習対象の実施基準	原則実施しない								

令和6年度 授業計画書 [シラバス]										
科目名	A202y		専攻特別実習Ⅱ（農）		学科名	農学科	学年	2年	学期	全期
授業の方法	実習		区分	必修	単位数	4	時間数	120	開講時期	4月～3月
科目の概要	・各専攻において栽培する品目の栽培技術と鮮度保持技術、出荷調整について学ぶ。 （野菜専攻、果樹専攻、花専攻）									
講師名	農業大学校指導職員							実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	各専攻において栽培する品目の栽培技術を習得するとともに、出荷調整技術を習得する。									
使用教材	講師準備資料									
成績評価	方法	知識（40点）			技能・技術（40点）		出席率（20点）		学習態度（減点）	
	基準	各専攻で栽培する品目の生育や出荷調整について、理解度を評価する。			各専攻で栽培する品目の生育や出荷調整について理解し、プロジェクト学習に積極的に取り組んでいるかをチェックし評定する。		出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0 時間数は日誌の提出をもってカウントする。		講義中の態度、提出物により20点を上限として減ずる。	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）										
回	内 容							時間	備 考	
通年	各専攻で栽培する品目の生産技術の習得 出荷調整技術の習得							120	農業大学校職員	
授業時間外に必要な学修	実習日誌の提出									
再試験及び補習対象の実施基準	原則実施しない									

令和6年度 授業計画書 [シラバス]										
科目名	A204s		作物の栽培管理・ 営農計画		学科名	農学科	学年	2年	学期	全期
授業の方法	講義・演習		区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～3月
科目の概要	・ 水稻、麦類、豆類、露地野菜の特性と栽培技術の理論及び営農計画の作成について学修する。□									
講師名	農業大学校指導職員							実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・ 水稻、麦類、豆類、露地野菜の特性と栽培技術の理論の習得及び営農計画を作成する。□									
使用教材	作物学の基礎Ⅰ（農文教） 作物の病害虫診断（農文教） ミニ植物図鑑（全国農村教育協会） 野菜園芸学の基礎 講師準備資料									
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			学習態度（減点）		
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・ 95%以上 1.0 ・ 90%以上95%未満 0.9 ・ 80%以上90%未満 0.8 ・ 70%以上80%未満 0.7 ・ 70%未満 0			講義中の態度、提出物により20点を上限として減ずる。		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）										
回	内 容						時間	備 考		
1	プロジェクト学習に選定した品目の栽培管理						1	農業大学校指導職員		
2	水稻栽培における雑草防除（雑草の種類、防除方法ほか）						1			
3	水稻栽培における雑草防除（除草剤）						1			
4	水稻栽培における病害虫防除（主要な病気と防除方法）						1			
5	水稻栽培における病害虫防除（主要な害虫と防除方法）						1			
6	水稻栽培における先進的な技術と経営（ICT技術、経営費ほか）						1			
7	豆類の栽培（栽培方法、病害虫ほか）						1			
8	葉たばこ栽培（栽培方法、病害虫、加工ほか）						1			
9	プロジェクト学習に選定した品目の栽培管理						1			
10	露地野菜の栽培管理						1			
11	露地野菜の栽培管理						1			
12	露地野菜の栽培管理						1			
13	露地野菜の栽培管理						1			
14	プロジェクト学習に選定した品目の栽培管理						1			
15	試験						1			
授業時間外に必要な学修	特になし									
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しない									

令和6年度 授業計画書 [シラバス]									
科目名	A204y	施設野菜の 栽培管理・営農計画		学科名	農学科	学年	2年	学期	全期
授業の方法	講義・演習	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～3月
科目の概要	プロジェクト学修に選定した品目の栽培技術及び営農計画作成方法について学ぶ。								
講師名	農業大学校指導職員							実務経験のある教員 等による授業科目	
到達目標	プロジェクト学修に選定した品目の栽培技術の習得及び営農計画の作成								
使用教材	講師準備資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			学習態度（▲20点）	
	基準	プロジェクト学修に選定した品目の栽培技術の習得及び営農計画作成が適切に実践されているかチェックし、100点満点の90％を評価点とする。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			講義・演習中の態度、提出物により20点を上限として減ずる。	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1	すいかの栽培管理技術とプロジェクト学修方法						1		
2	すいかの栽培管理技術とプロジェクト学修方法						1		
3	トマトの栽培管理技術とプロジェクト学修方法						1		
4	トマトの栽培管理技術とプロジェクト学修方法						1		
5	きゅうりの栽培管理技術とプロジェクト学修方法						1		
6	きゅうりの栽培管理技術とプロジェクト学修方法						1		
7	ピーマンの栽培管理技術とプロジェクト学修方法						1		
8	ピーマンの栽培管理技術とプロジェクト学修方法						1		
9	いちごの栽培管理技術とプロジェクト学修方法						1		
10	いちごの栽培管理技術とプロジェクト学修方法						1		
11	メロンの栽培管理技術とプロジェクト学修方法						1		
12	メロンの栽培管理技術とプロジェクト学修方法						1		
13	野菜プロジェクト学修成果発表						1		
14	野菜プロジェクト学修成果発表						1		
15	試験						1		
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しない								

令和6年度 授業計画書【シラバス】										
科目名	A204h	花きの栽培管理・営農計画			学科名	農学科	学年	2年	学期	全期
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～3月	
科目の概要	・プロジェクト学修に選定した品目の栽培管理、営農計画の作成									
講師名	農業大学校指導職員							実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・プロジェクト学修に選定した品目の施肥、防除、鮮度保持対策及び営農計画を作成する。									
使用教材	講師準備資料									
成績評価	方法	知識（90点）				出席率（10点）		学習態度（▲20点）		
	基準	プロジェクト学修に選定した品目の施肥、病虫害防除、切り花方法、鮮度保持対策が適切に実践されているかチェックし、100点満点の90%を評価点とする。				出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		各授業において受講態度をA・B・Cの3段階で評価する。 A：問題のない受講態度 0点 B：注意を受けたが改善 5点 C：改善できていない、授業を妨害点 20点		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）										
回	内 容						時間	備 考		
1	プロジェクト学習品目の時期別切り前と鮮度保持						1			
2	球根植物の球根養成方法と堀上、乾燥方法						1			
3	球根植物の球根養成方法と堀上、乾燥方法						1			
4	花き栽培における病虫害防除（主要な病気と防除方法）						1			
5	花き栽培における病虫害防除（主要な害虫と防除方法）						1			
6	栄養繁殖品目の育苗方法						1			
7	種子繁殖品目の育苗方法						1			
8	花き栽培における先進的な技術と経営						1			
9	花き栽培における先進的な技術と経営						1			
10	スイートピーの栽培管理技術とプロジェクト学習成果						1			
11	ダリアの栽培管理技術とプロジェクト学習成果						1			
12	ランタンキュラスの栽培管理技術とプロジェクト学習成果						1			
13	トルコギキョウの栽培管理技術とプロジェクト学習成果						1			
14	花きプロジェクト学習成果発表会						1			
15	試験						1			
授業時間外に必要な学修	特になし									
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情のある場合はレポート作成とする									

令和6年度 授業計画書【シラバス】										
科目名	A204k		果樹の栽培管理・ 営農計画		学科名	農学科	学年	2年	学期	全期
授業の方法	講義・演習	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～3月	
科目の概要	プロジェクト学修に選定した品目の栽培管理、営農計画の作成									
講師名	農業大学校指導職員							実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	プロジェクト学修に選定した品目の施肥、防除、出荷調整対策及び営農計画を作成する。									
使用教材	講師準備資料									
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			学習態度（減点）		
	基準	プロジェクト学修に選定した品目の栽培管理及びプロジェクト学習成果について適切に実践されているかチェックし、100点満点の90%を評価点とする。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			講義中の態度、提出物により20点を上限として減ずる。		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）										
回	内 容						時間	備 考		
1	果樹における病虫害管理（総論）						1			
2	マンゴーの栽培管理技術とプロジェクト学習成果						1			
3	マンゴーの栽培管理技術とプロジェクト学習成果						1			
4	みかんの栽培管理技術とプロジェクト学習成果						1			
5	みかんの栽培管理技術とプロジェクト学習成果						1			
6	ライチの栽培管理技術とプロジェクト学習成果						1			
7	ライチの栽培管理技術とプロジェクト学習成果						1			
8	きんかんの栽培管理技術とプロジェクト学習成果						1			
9	きんかんの栽培管理技術とプロジェクト学習成果						1			
10	日向夏の栽培管理技術とプロジェクト学習成果						1			
11	日向夏の栽培管理技術とプロジェクト学習成果						1			
12	ぶどうの栽培管理技術とプロジェクト学習成果						1			
13	ぶどうの栽培管理技術とプロジェクト学習成果						1			
14	果樹プロジェクト学習成果発表						1			
15	果樹プロジェクト学習成果発表						1			
授業時間外に必要な学修	特になし									
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しない									

令和6年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	A204k	茶の栽培管理・営農計画		学科名	農学科	学年	2 年	学期	全期
授業の方法	講義・演習	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～3月
科目の概要	茶の栽培技術及び営農計画作成方法について学ぶ。 茶に関する理解を深めるため、歴史と文化や生産・流通・消費、健康増進を学ぶ。								
講師名	総合農業試験場茶業支場職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	茶に関する理解を深めるため、歴史と文化や生産・流通・消費、健康増進の知識を習得させる。								
使用教材	日本茶検定公式テキスト日本茶のすべてがわかる本 講師準備資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）		学習態度（減点）		
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		講義中の態度、提出物により20点を上限として減ずる。		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1	茶のプロフィール、成分、淹れ方						1	茶業支場支場長	
2	茶の健康増進①						1	茶業支場支場長	
3	茶の健康増進②						1	茶業支場支場長	
4	プロジェクト学修方法と茶の歴史と文化①						1	茶業支場支場長	
5	プロジェクト学修方法と茶の歴史と文化②						1	茶業支場支場長	
6	本県の茶業史						1	茶業支場支場長	
7	本県の茶業研究						1	茶業支場支場長	
8	プロジェクト学修成果と世界の茶の生産・流通・消費						1	茶業支場支場長	
9	プロジェクト学修成果日本の茶の生産・流通・消費						1	茶業支場支場長	
10	プロジェクト学修成果と本県の茶の生産・流通・消費						1	茶業支場支場長	
11	茶の栽培管理と品種育成①						1	茶業支場育種科	
12	茶の栽培管理と茶の品種育成②						1	茶業支場育種科	
13	茶の栽培管理と茶の品種①						1	茶業支場育種科	
14	茶の栽培管理と茶の品種②						1	茶業支場育種科	
15	試験						1	茶業支場支場長	
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しない								

令和6年度 授業計画書 [シラバス]										
科目名	B206s		作物の流通・販売		学科名	農学科	学年	2年	学期	全期
授業の方法	講義・演習		区分	履修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～3月
科目の概要	作物並びに露地野菜の流通・販売について実践的に学ぶ。									
講師名	農業大学校指導職員 市場・仲卸関係者、専門店・量販店・直売所関係者							実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・国内外における作物並びに露地野菜の流通動向及び消費動向について理解する。 ・市場・仲卸の役割や販売店の実際について理解する。									
使用教材	各指導者が準備する資料									
成績評価	方法	研修報告書（80点）			出席率（20点）			学習態度（減点）		
	基準	・提出 提出あり：50点 提出なし：0点 ・内容 A（良い）30点 B（普通）15点 C（悪い）5点			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			研修中、講義中の態度により20点を上限として減ずる。		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）										
回	内 容							時間	備 考	
1	国内外の作物の流通・販売について							1	講義	
2	国内外の作物の流通・販売について							1	講義	
3	国内外の作物の流通・販売について							1	講義	
4	市場・仲卸の役割と流通の実際							10/1	視察研修	
5	市場・仲卸の役割と流通の実際							10/1	視察研修	
6	市場・仲卸の役割と流通の実際							10/1	視察研修	
7	市場・仲卸の役割と流通の実際							10/1	視察研修	
8	市場・仲卸の役割と流通の実際							10/1	視察研修	
9	市場・仲卸の役割と流通の実際							10/1	視察研修	
10	作物の販売の実際							2/4	視察研修	
11	作物の販売の実際							2/4	視察研修	
12	作物の販売の実際							2/4	視察研修	
13	作物の販売の実際							2/4	視察研修	
14	作物の販売の実際							2/4	視察研修	
15	作物の販売の実際							2/4	視察研修	
授業時間外に必要な学修	研修報告書の作成									
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情のある場合はレポート作成とする									

令和6年度 授業計画書 [シラバス]										
科目名	B206y		施設野菜の流通・販売		学科名	農学科	学年	2年	学期	全期
授業の方法	講義・演習		区分	履修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～3月
科目の概要	野菜の流通・販売について実践的に学ぶ。									
講師名	農業大学校指導職員 市場・仲卸関係者、専門店・量販店・直売所関係者							実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	国内外における野菜の流通動向及び消費動向について理解 市場・仲卸の役割や販売店の実際について理解									
使用教材	各関係者が準備する資料									
成績評価	方法	研修報告書（80点）				出席率（20点）			学習態度（▲20点）	
	基準	報告書の提出 ・提出あり：50点 ・提出なし：0点 報告書の内容、量等 ・記述内容等が適正 30点 ・記述内容等が普通 15点 ・記述内容等が不十分 5点				出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			講義、演習中の態度により20点を上限として減ずる。	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）										
回	内 容							時間	備 考	
1	国内外の野菜の流通・販売について							1	講義	
2	国内外の野菜の流通・販売について							1	講義	
3	国内外の野菜の流通・販売について							1	講義	
4～9	市場・仲卸の役割と流通の実際							6	視察研修	
10～15	野菜の販売の実際							6	視察研修	
授業時間外に必要な学修	研修報告書の作成									
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情のある場合はレポート作成とする									

令和6年度 授業計画書【シラバス】										
科目名	B206h		花きの流通・販売		学科名	農学科	学年	2年	学期	全期
授業の方法	講義・演習	区分	履修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～3月	
科目の概要	花きの流通・販売について実践的に学ぶ。									
講師名	農業大学校指導職員 市場・仲卸関係者、専門店・量販店・直売所関係者							実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・国内外における花きの流通動向及び消費動向について理解する。 ・市場・仲卸の役割や販売店の実際について理解する。									
使用教材	各指導者が準備する資料									
成績評価	方法	研修報告書（80点）			出席率（20点）			学習態度（▲20点）		
	基準	・提出 提出あり：50点 提出なし：0点 ・内容 A（良い）30点 B（普通）15点 C（悪い）5点			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			・講師の評定による。20点を上限として減ずる。		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）										
回	内 容						時間	備 考		
1	国内外の花きの流通・販売について						1	講義		
2	国内外の花きの流通・販売について						1	講義		
3	国内外の花きの流通・販売について						1	講義		
4～9	市場・仲卸の役割と流通の実際						6	視察研修		
10～15	花きの販売の実際						6	視察研修		
授業時間外に必要な学修	研修報告書の作成									
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情のある場合はレポート作成とする									

令和6年度 授業計画書【シラバス】										
科目名	B206k		果樹の流通・販売		学科名	農学科	学年	2年	学期	全期
授業の方法	講義・演習	区分	履修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～3月	
科目の概要	果樹の流通・販売について実践的に学ぶ。									
講師名	農業大学校指導職員 市場・仲卸関係者、専門店・量販店・直売所関係者							実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・国内外における果樹の流通動向及び消費動向について理解する。 ・市場・仲卸の役割や販売店の実際について理解する。									
使用教材	各指導者が準備する資料									
成績評価	方法	研修報告書（80点）			出席率（20点）			学習態度（減点）		
	基準	・提出 提出あり：50点 提出なし：0点 ・内容 A（良い）30点 B（普通）15点 C（悪い）5点			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			講義、研修中の態度、提出物により20点を上限として減ずる。		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）										
回	内 容						時間	備 考		
1	国内外の果樹の流通・販売について						1	講義		
2	国内外の果樹の流通・販売について						1	講義		
3	国内外の果樹の流通・販売について						1	講義		
4	市場・仲卸の役割と流通の実際						1	視察研修		
5	市場・仲卸の役割と流通の実際						1	視察研修		
6	市場・仲卸の役割と流通の実際						1	視察研修		
7	市場・仲卸の役割と流通の実際						1	視察研修		
8	市場・仲卸の役割と流通の実際						1	視察研修		
9	市場・仲卸の役割と流通の実際						1	視察研修		
10	果樹の販売の実際						1	視察研修		
11	果樹の販売の実際						1	視察研修		
12	果樹の販売の実際						1	視察研修		
13	果樹の販売の実際						1	視察研修		
14	果樹の販売の実際						1	視察研修		
15	果樹の販売の実際						1	視察研修		
授業時間外に必要な学修	研修報告書の作成									
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情のある場合はレポート作成とする									

令和6年度 授業計画書〔シラバス〕

科目名	B206c	茶の流通・販売		学科名	農学科	学年	2 年	学期	全期
授業の方法	講義・演習	区分	履修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～3月
科目の概要	茶の流通・販売について実践的に学ぶ。								
講師名	総合農業試験場茶業支場職員、農業大学校指導職員 市場・仲卸関係者、専門店・量販店・直売所関係者						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・国内外における茶の流通動向及び消費動向について理解する。 ・市場・仲卸の役割や販売店の実際について理解する。								
使用教材	各指導者が準備する資料								
成績評価	方法	研修報告書（８０点）			出席率（２０点）		学習態度（減点）		
	基準	・提出 提出あり：50点 提出なし： 0点 ・内容 A（良い）30点 B（普通）15点 C（悪い） 5点			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		講義、研修中の態度、提出物により20点を上限として減ずる。		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1	国内外の茶の流通・販売について					3	農業大学校指導職員 （講義）		
2	国内外の茶の流通・販売について								
3	国内外の茶の流通・販売について								
4	市場・仲卸の役割と流通の実際					6	農業大学校指導職員 専門店・量販店・直売所等 （校外学習）		
5	市場・仲卸の役割と流通の実際								
6	市場・仲卸の役割と流通の実際								
7	市場・仲卸の役割と流通の実際								
8	市場・仲卸の役割と流通の実際								
9	市場・仲卸の役割と流通の実際					6	農業大学校指導職員 専門店・量販店・直売所等 （校外学習）		
10	茶の販売の実際								
11	茶の販売の実際								
12	茶の販売の実際								
13	茶の販売の実際								
14	茶の販売の実際								
15	茶の販売の実際								
授業時間外に必要な学修	研修報告書の作成								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情のある場合はレポート作成とする。								

令和6年度 授業計画書 [シラバス]									
科目名	Z201	専攻実習Ⅱ（畜）		学科名	畜産学科	学年	2年	学期	全期
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	13	時間数	390	開講時期	4月～12月
科目の概要	各専攻別に家畜の飼養管理や繁殖・肥育管理等の実習を通して生産技術や経営スキルを学ぶ。								
講師名	農業大学校職員							実務経験のある教員等による授業科目	
到達目標	畜産の生産技術や経営技術を習得する。								
使用教材	講師作成資料								
成績評価	方法	知識（40点）		技能・技術（40点）		出席率（20点）		受講態度（減点）	
	基準	各専攻別に家畜の飼養管理等の実習やプロジェクト学習に積極的に取り組んでいるかをチェックし評定する。		講師の採点による。		出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・90%以上 1.0 *90%未満は評価対象外		20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為 等	
回	内 容						時間	備 考	
1～50	家畜の飼養管理等						50	4月	
71～100	家畜の飼養管理等						50	5月	
101～170	家畜の飼養管理等						70	6月	
171～220	家畜の飼養管理等						50	7月	
221～280	家畜の飼養管理等						70	9月	
281～350	家畜の飼養管理等						80	10月	
351～380	家畜の飼養管理等						30	11月	
381～390	家畜の飼養管理等						10	12月	
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として再試及び補講は行わないが、特別な事情がある場合は時間外に補講を認める。								

令和 6 年度 授業計画書 [シラバス]									
科目名	Z202	専攻特別実習Ⅱ (畜)		学科名	畜産学科	学年	2 年	学期	全期
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	4	時間数	120	開講時期	4月～10月
科目の概要	各専攻別に家畜の飼養管理や繁殖・肥育管理等の実習を通して生産技術や経営スキルを学ぶ。								
講師名	農業大学校職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	畜産の生産技術や経営技術を習得する。								
使用教材	講師作成資料								
成績評価	方法	知識（４０点）		技能・技術（４０点）		出席率（２０点）		受講態度（減点）	
	基準	各専攻別に家畜の飼養管理等の実習やプロジェクト学習に積極的に取り組んでいるかをチェックし評定する。		講師の採点による。		出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・90%以上 1.0 *90%未満は評価対象外		20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為 等	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1～20	家畜の飼養管理等						20	4 月	
21～40	家畜の飼養管理等						20	5 月	
41～55	家畜の飼養管理等						15	6 月	
56～70	家畜の飼養管理等						15	7 月	
71～100	家畜の飼養管理等						30	8 月	
101～110	家畜の飼養管理等						10	9 月	
111～120	家畜の飼養管理等						10	1 0 月	
授業時間外に必要な学修									
再試験及び補習対象の実施基準	時間外実習の時間が不足する場合、休業期間中に時間外実習を行う。								

令和6年度 授業計画書 [シラバス]									
科目名	Z203	スマート農業活用(畜)		学科名	畜産学科	学年	2 年	学期	全期
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	1 1 月～1 月
科目の概要	・スマート農機を使いこなすための基本となる計測データの内容と解析方法を学ぶ。 ・ドローン等 I C T 機器を操作する際の法令・ルールについて学ぶ。								
講師名	外部講師							実務経験のある教員等による授業科目	
到達目標	・データの内容と解析方法を習得させる。 ・卒業後、現場においてスマート農業を実践できる基本的なスキルを習得させる。								
使用教材	講師準備資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）		受講態度(減点)		
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為 等		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1	畜産経営におけるデータの活用（肉用牛）					1	外部講師		
2	畜産経営におけるデータの活用（酪農）					1			
3	試験①					1			
4	畜産経営におけるスマート農業の開発①					1	外部講師		
5	畜産経営におけるスマート農業の開発②					1			
6	畜産経営におけるスマート農業の開発③					試験②			
7	農業大学校における環境制御型牛舎のデータ分析と活用					1	外部講師		
8	農業大学校における環境制御型牛舎のデータ分析と活用					試験③			
9	自動操舵システム等スマート農業の活用					1	外部講師		
10	自動操舵システム等スマート農業の活用					試験④			
11	ドローン操縦基礎講座・演習					1	外部講師		
12	ドローン操縦基礎講座・演習					試験⑤			
13	酪農経営におけるスマート農業の活用事例					1	外部講師		
14	酪農経営におけるスマート農業の活用事例					1			
15	酪農経営におけるスマート農業の活用事例					試験⑥			
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。								

令和6年度 授業計画書〔シラバス〕									
科目名	Z204	育種と繁殖Ⅱ		学科名	畜産学科	学年	2年	学期	前期
授業の方法	講義・演習	区分	必修	単位数	2	時間数	30	開講時期	4月～5月
科目の概要	育種では、家畜の遺伝の原理や主要形質の遺伝、家畜の選抜・交配・能力検定の方法、家畜登録制度の内容を学ぶ。繁殖では繁殖に関連する主なホルモンの作用機序や分泌調節、雌・雄の繁殖生理、妊娠と分娩のしくみとともに、家畜人工授精技術について学ぶ。								
講師名	農業大学職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・家畜の育種や繁殖に関する知識を習得する。 ・家畜人工授精に関する知識を習得する。								
使用教材	・家畜人工授精講習会テキスト ・講師作成資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			受講態度（減点）	
	基準	講義ごとの試験・レポートにより評価			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為 等	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容 ●は「家畜人工授精に関する講習」（国）の科目名及び内容						時間	備 考	
1～2	神経・内分泌（内分泌概論） ●〈繁殖生理（神経・内分泌及び雌繁殖整理）〉 繁殖機能に係るホルモン及び神経						2	農業大学校職員	
3～5	神経・内分泌（繁殖に関連する主なホルモン） 試験① ●〈繁殖生理（神経・内分泌及び雌繁殖整理）〉 性ホルモンの種類及び作用						3		
6～10	繁殖生理（発情周期とその制御・調節機構） ●〈繁殖生理（神経・内分泌及び雌繁殖整理）〉 繁殖の周期性及び性成熟 発情周期に伴う生殖器及び行動の変化 受精及び受精卵の発育						5		
11～14	繁殖生理（発情周期とその制御・調節機構） 試験② ●〈種付けの理論（妊娠と分娩）〉 雌生殖器内における精子及び卵子の移動及びその機能の変化 授精（交配）適期						4		
15～17	精子生理（性成熟と繁殖供用・精子の形成と成熟） ●〈精子生理（雄繁殖生理）〉 精液量及び精子数並びに精液の理化学的性状						3		
18～22	精子生理（精子の形態と機能、交尾・射精と精液） 試験③ ●〈精子生理（雄繁殖生理）〉 精子の形態及び構造 精子の機能 精液性状及び精子機能に関与する要因 ●〈繁殖生理（神経・内分泌及び雌繁殖生理）〉 射精の機序（㉑）						5		
23～30	人工授精技術Ⅲ（精液精子検査法）（演習） 試験④ ●〈精液精子検査法〉 精液及び精子の検査法						8		
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。								

令和6年度 授業計画書【シラバス】									
科目名	Y209	家畜の衛生と環境		学科名	畜産学科	学年	2年	学期	全期
授業の方法	講義	区分	履修	単位数	1	時間数	15	開講時期	6月～7月
科目の概要	家畜の飼養管理上基礎となる家畜衛生の意義と疾病診断、予防について学ぶ。また、畜産環境を取り巻く現状と課題、家畜排せつ物処理技術とともに環境と調和した資源循環型畜産の意義と重要性を学ぶ								
講師名	外部講師						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	家畜衛生及び畜産環境の情勢と課題及びその対策技術に関する知識を習得する。								
使用教材	講師作成資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			受講態度（減点）	
	基準	講義ごとの試験・レポートにより評価			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1	世界及び日本における疾病の発生状況と防疫体制						1	外部講師	
2	世界及び日本における疾病の発生状況と防疫体制						1		
3	宮崎県における疾病の発生状況と防疫体制						1		
4	宮崎県における疾病の発生状況と防疫体制						1		
5	試験①						1		
6	家畜衛生の目的と疾病対策						1		
7	家畜衛生の目的と疾病対策						1		
8	疾病の簡易診断法と予防接種						1		
9	疾病の簡易診断法と予防接種						1		
10	試験②						1		
11	家畜排せつ物の適正処理と利用						1		
12	堆肥化処理技術と施設						1		
13	汚水処理技術と施設						1		
14	悪臭対策						1		
15	試験③						1		
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。								

令和6年度 授業計画書 [シラバス]									
科目名	Y210	G A P 演習Ⅱ (畜)		学科名	畜産学科	学年	2 年	学期	後期
授業の方法	演習	区分	履修	単位数	1	時間数	15	開講時期	9月～11月
科目の概要	G A P の内容を理解し、G A P 基準書、運営マニュアルの自己点検、実践手法を学ぶ。								
講師名	農業大学校職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・ G A P 基準書、運営マニュアルのリスク評価及び自己点検手法を習得させる。 ・ G A P 維持・更新審査の内容を理解させ、受験に対応する知識を身につけさせる。								
使用教材	J G A P 総合規則、農場用管理点と適合基準、アニマルウェルフェアの考え方に対応した飼養管理指針、G A P 手順書 等								
成績評価	方法	知識（9 0 点）			出席率（1 0 点）		受講態度（減点）		
	基準	専攻毎のG A P 基準書、運営マニュアルの自己点検手法、審査内容の理解度を専攻担当者が評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・ 90%以上 1. 0 * 90%未満は評価対象外		20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為 等		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1	リスク評価表に基づくリスク評価及び見直し（各専攻）①					1	担当講師：農業大学校職員		
2	リスク評価表に基づくリスク評価及び見直し（各専攻）②					1			
3	リスク評価表に基づくリスク評価及び見直し（各専攻）③					1			
4	リスク評価表に基づくリスク評価及び見直し（各専攻）④					1			
5	G A P 基準書に基づく自己点検（各専攻）①					1			
6	G A P 基準書に基づく自己点検（各専攻）②					1			
7	G A P 基準書に基づく自己点検（各専攻）③					1			
8	G A P 基準書に基づく自己点検（各専攻）④					1			
9	G A P 維持審査準備（各専攻）					1			
10	J G A P 維持審査受験①（模擬審査）					1			
11	J G A P 維持審査受験②（模擬審査）					1			
12	J G A P 維持審査受験③（模擬審査）					1			
13	J G A P 維持審査受験④（模擬審査）					1			
14	J G A P 維持審査受験⑤（模擬審査）					1			
15	J G A P 維持審査受験⑥（模擬審査）					1			
授業時間外に必要な学修	専攻実習Ⅱ及び専攻特別実習Ⅱにおける農場での実践演習								
再試験及び補習対象の実施基準	原則して再試験は実施しない								

令和6年度 授業計画書〔シラバス〕

科目名	Y211	畜産指導演習		学科名	畜産学科	学年	2 年	学期	全期
授業の方法	演習	区分	履修	単位数	1	時間数	15	開講時期	7 ～ 9 月
科目の概要	2 年生が各専攻の飼養管理や農場のルール等について指導できるよう演習する。								
講師名	農業大学校職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	2 年生が各専攻の飼養管理や農場のルール等について適切に指導できる。								
使用教材	講師準備資料								
成績評価	方法	知識（８０点）			出席率（２０点）		受講態度（減点）		
	基準	各専攻の飼養管理やルール等を理解し、１年生に適切に指導できているかをチェックし、100点満点の評価を行うが80%を評価点とする。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・90%以上 1.0 *90%未満は評価対象外		20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為 等		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1	畜産指導演習方法と注意事項					1	担当講師： 農業大学校職員		
2	2 年生が各専攻の飼養管理やルール等を 1 年生に指導					1			
3	2 年生が各専攻の飼養管理やルール等を 1 年生に指導					1			
4	2 年生が各専攻の飼養管理やルール等を 1 年生に指導					1			
5	2 年生が各専攻の飼養管理やルール等を 1 年生に指導					1			
6	2 年生が各専攻の飼養管理やルール等を 1 年生に指導					1			
7	2 年生が各専攻の飼養管理やルール等を 1 年生に指導					1			
8	2 年生が各専攻の飼養管理やルール等を 1 年生に指導					1			
9	2 年生が各専攻の飼養管理やルール等を 1 年生に指導					1			
10	2 年生が各専攻の飼養管理やルール等を 1 年生に指導					1			
11	2 年生が各専攻の飼養管理やルール等を 1 年生に指導					1			
12	2 年生が各専攻の飼養管理やルール等を 1 年生に指導					1			
13	2 年生が各専攻の飼養管理やルール等を 1 年生に指導					1			
14	2 年生が各専攻の飼養管理やルール等を 1 年生に指導					1			
15	畜産指導演習の反省と助言					1			
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情のある場合はレポート作成とする								

令和6年度 授業計画書【シラバス】									
科目名	Y212	家畜の解剖		学科名	畜産学科	学年	2年	学期	全期
授業の方法	講義	区分	履修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～7月
科目の概要	家畜の体の構造について骨格、筋肉、臓器について総括的に理解させるとともに、削蹄を行う上で必要な肢蹄の解剖学を学ぶ。								
講師名	農業大学校職員、外部講師						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・家畜の体の構造について理解する。 ・家畜人工授精に関する知識を習得する。								
使用教材	・家畜人工授精テキスト ・講師作成資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			受講態度（減点）	
	基準	講義ごとの試験・レポートにより評価			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為 等	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容 ●は「家畜人工授精に関する講習」（国）の科目名及び内容					時間	備 考		
1	生殖器解剖（生殖器の分類と発生） ●〈生殖器解剖〉精子形成及び卵子形成					1	農業大学校職員		
2	生殖器解剖（生殖器の分類と発生） ●〈生殖器解剖〉精子形成及び卵子形成					1			
3	生殖器解剖（生殖器の形態及び機能） ●〈生殖器解剖〉生殖器の形態及び機能					1			
4	生殖器解剖（生殖器の形態及び機能） ●〈生殖器解剖〉生殖器の形態及び機能					1			
5	試験① ●〈生殖器解剖〉					1			
6	家畜の骨格					1	外部講師		
7	家畜の骨格					1			
8	家畜の骨格					1			
9	家畜の筋肉					1			
10	家畜の筋肉					1			
11	家畜の臓器					1			
12	家畜の臓器					1			
13	家畜の肢蹄の構造					1			
14	家畜の肢蹄の構造					1			
15	試験②					1			
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。								

令和6年度 授業計画書【シラバス】									
科目名	Y213	畜産の新技术		学科名	畜産学科	学年	2年	学期	全期
授業の方法	講義	区分	履修	単位数	1	時間数	15	開講時期	10月～12月
科目の概要	畜産における新技术開発の現状や課題について理解させるとともに、バイオテクノロジーの歴史、技術の意義、採卵、検卵、移植までの一連の知識と技術に加え、宮崎県における受精卵移植技術の利用と普及状況について学ぶ。								
講師名	農業大学校職員、外部講師						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	畜産における新技术や受精卵移植に関する知識を習得する。								
使用教材	講師作成資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）		受講態度（減点）		
	基準	講義ごとの試験・レポートにより評価			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為 等		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1	畜産における新技术開発の現状と課題（大家畜）					1	外部講師		
2	畜産における新技术開発の現状と課題（飼料、豚）					1			
3	畜産における新技术開発の現状と課題（鶏、家畜排せつ物）試験①					1			
4	体内受精卵移植技術の沿革と制度、県内における歴史と普及					1	農業大学校職員		
5	体内受精卵移植技術の実際の手順（採取、処理、移植）					1			
6	体外受精卵移植技術の概要試験②					1			
7	受精卵の採卵（演習）					1	外部講師		
8	受精卵の採卵（演習）					1			
9	受精卵の採卵（演習）					1			
10	受精卵の採卵（演習）					1			
11	受精卵の採卵（演習）					1			
12	受精卵の採卵（演習）					1			
13	受精卵の採卵（演習）					1			
14	受精卵の採卵（演習）					1			
15	試験③					1			
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。								

令和6年度 授業計画書 [シラバス]									
科目名	Y214	畜産物の加工と流通		学科名	畜産学科	学年	2 年	学期	後期
授業の方法	演習	区分	履修	単位数	1	時間数	15	開講時期	10月～1月
科目の概要	食品関連法の基礎知識、乳肉加工の種類と特徴及び県産畜産物流通の現状と課題について学ぶ。また、乳肉製品の製造演習を通して、各段階での乳及び食肉の変化や理論を学ぶ。								
講師名	・外部講師 ・農業大学校職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	乳肉加工の製造の基礎を習得する。								
使用教材	講師作成資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）		受講態度（減点）		
	基準	講義ごとの試験・レポートにより評価			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為 等		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1	食品関連法の基礎知識、乳肉加工の種類と特徴						1	外部講師	
2	食品関連法の基礎知識、乳肉加工の種類と特徴						1		
3	試験①						1		
4	肉加工品の製造（演習） 場所：調理室、肉加工室						1		
5	肉加工品の製造（演習）						1		
6	肉加工品の製造（演習）						1		
7	肉加工品の製造（演習）						1		
8	肉加工品の製造（演習）						1		
9	試験②						1		
10	乳加工品の製造（演習） 場所：調理室						1	農業大学校職員	
11	乳加工品の製造（演習）						1		
12	乳加工品の製造（演習）						1		
13	乳加工品の製造（演習）						1		
14	乳加工品の製造（演習）						1		
15	試験③						1		
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。								

令和6年度 授業計画書 [シラバス]									
科目名	Y205nr	肉用牛・酪農経営 コンサルティング		学科名	畜産学科	学年	2 年	学期	全期
授業の方法	講義	区分	履修	単位数	1	時間数	15	開講時期	9月～11月
科目の概要	肉用牛・酪農経営における技術的指標、経営的指標の各項目について学ぶとともに、経営分析指標等と比較し経営診断する技法を学ぶ。								
講師名	外部講師						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	畜産経営における将来像を具体化するため、我が家の経営または経営事例をもとに、現状を把握し、将来のあるべき経営像を描き、その到達目標を実現すべく長期計画を樹立させるとともにその手順を立案する。								
使用教材	講師作成資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）		受講態度（減点）		
	基準	講義ごとの試験・レポートにより評価			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為 等		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1	肉用牛経営における経営事例研究					1	外部講師		
2	肉用牛経営における経営事例研究					1			
3	肉用牛経営における経営事例研究 試験①					1			
4	酪農経営における経営事例研究					1			
5	酪農経営における経営事例研究					1			
6	酪農経営における経営事例研究 試験②					1			
7	肉用牛経営の分析と診断					1			
8	肉用牛経営の分析と診断					1			
9	肉用牛経営の分析と診断					1			
10	肉用牛経営の分析と診断					1			
11	肉用牛経営の分析と診断 試験③					1			
12	酪農経営の分析と診断					1			
13	酪農経営の分析と診断					1			
14	酪農経営の分析と診断					1			
15	酪農経営の分析と診断 試験④					1			
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。								

令和6年度 授業計画書 [シラバス]									
科目名	Y205b	養豚経営 コンサルティング		学科名	畜産学科	学年	2 年	学期	全期
授業の方法	講義	区分	履修	単位数	1	時間数	15	開講時期	9 月～1 1 月
科目の概要	養豚経営における技術的指標、経営的指標の各項目について学ぶとともに、また、養豚経営における将来像を具体化するため、我が家の経営または経営事例をもとに、現状を把握し、将来のあるべき経営像を描かせ、その到達目標を実現すべく長期計画を樹立させるとともにその手順を立案させる。								
講師名	農業大学校職員、外部講師						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	経営分析指標等と比較し経営診断する能力を習得させる。								
使用教材	・養豚の教科書 ・わかりやすい養豚場実用ハンドブック ・講師作成資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）		受講態度（減点）		
	基準	講義ごとの試験・レポートにより評価			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為 等		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1	養豚経営の分析・診断 事例研究						1	外部講師	
2	養豚経営の分析・診断 事例研究						1		
3	養豚経営の分析・診断 事例研究						1		
4	養豚経営の分析・診断 事例研究						1		
5	養豚経営の分析・診断 事例研究						1		
6	養豚経営の分析・診断 事例研究						1		
7	養豚経営の分析・診断 事例研究						1		
8	養豚経営の分析・診断 事例研究						1		
9	養豚経営の分析・診断 事例研究						1		
10	試験①						1		
11	養豚経営分析書の重要性、目的						1	農業大学校職員	
12	養豚経営分析書の基本的考え方						1		
13	養豚経営分析書の作成手順、内容						1		
14	年次別家畜の飼養計画内訳						1		
15	養豚経営分析書成果品提出						1		
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。								

令和6年度 授業計画書【シラバス】									
科目名	Y206n	肉用牛経営の営農計画		学科名	畜産学科	学年	2年	学期	全期
授業の方法	演習	区分	履修	単位数	1	時間数	15	開講時期	9～12月
科目の概要	プロジェクト学習に選定した品目（繁殖牛、肥育牛）について、営農計画書の作成の仕方を学ぶとともに、経営計画の策定に必要な知識を身につける。								
講師名	農業大学校職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	畜産経営における営農計画を作成する								
使用教材	講師準備資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			学習態度（減点）	
	基準	各講義・演習で作成する計画等の作成状況によって習熟度を評価するとともに、試験を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為 等	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1	目標設定の考え方					1	農業大学校職員		
2	経営目標・技術目標の設定					1			
3	生産計画の作成					1			
4	経営収支計画書の作成					1			
5	経営収支計画書の作成					1			
6	経営収支計画書の作成					1			
7	経営収支計画書の作成					1			
8	経営収支計画書の作成					1			
9	経営収支計画書の作成					1			
10	経営収支計画書の作成					1			
11	経営収支計画書の作成					1			
12	経営収支計画書の作成					1			
13	就農計画書の作成					1			
14	就農計画書の作成					1			
15	試験					1			
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。								

令和6年度 授業計画書 [シラバス]									
科目名	Y206r	酪農経営の営農計画		学科名	畜産学科	学年	2 年	学期	全期
授業の方法	演習	区分	履修	単位数	1	時間数	1 5	開講時期	9～12月
科目の概要	酪農経営について、営農計画書の作成の仕方を学ぶとともに、経営計画の策定に必要な知識を身につける。								
講師名	農業大学校職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	酪農経営における営農計画を作成する								
使用教材	講師準備資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			学習態度（減点）	
	基準	各講義・演習で作成する計画等の作成状況によって習熟度を評価するとともに、試験を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為 等	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1	目標設定の考え方						1	農業大学校職員	
2	経営目標・技術目標の設定						1		
3	生産計画の作成						1		
4	経営収支計画書の作成						1		
5	経営収支計画書の作成						1		
6	経営収支計画書の作成						1		
7	経営収支計画書の作成						1		
8	経営収支計画書の作成						1		
9	経営収支計画書の作成						1		
10	経営収支計画書の作成						1		
11	経営収支計画書の作成						1		
12	経営収支計画書の作成						1		
13	就農計画書の作成						1		
14	就農計画書の作成						1		
15	試験						1		
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。								

令和6年度 授業計画書〔シラバス〕									
科目名	Y206b	養豚経営の営農計画		学科名	畜産学科	学年	2年	学期	全期
授業の方法	演習	区分	履修	単位数	1	時間数	15	開講時期	9～12月
科目の概要	養豚経営について、営農計画書の作成の仕方を学ぶとともに、経営計画の策定に必要な知識を身につける。								
講師名	農業大学校職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	養豚経営における営農計画を作成する								
使用教材	講師準備資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			学習態度（減点）	
	基準	各講義・演習で作成する計画等の作成状況によって習熟度を評価するとともに、試験を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為 等	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1	目標設定の考え方						1	農業大学校職員	
2	経営目標・技術目標の設定						1		
3	生産計画の作成						1		
4	経営収支計画書の作成						1		
5	経営収支計画書の作成						1		
6	経営収支計画書の作成						1		
7	経営収支計画書の作成						1		
8	経営収支計画書の作成						1		
9	経営収支計画書の作成						1		
10	経営収支計画書の作成						1		
11	経営収支計画書の作成						1		
12	経営収支計画書の作成						1		
13	就農計画書の作成						1		
14	就農計画書の作成						1		
15	試験						1		
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。								

令和6年度 授業計画書〔シラバス〕

科目名	Y207n	肉用牛の飼養管理		学科名	畜産学科	学年	2 年	学期	前期
授業の方法	演習	区分	履修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～7月
科目の概要	農場における飼養状況に応じて課題を取り上げ、肉用牛の飼養管理技術について知識・技術とともに、最新の試験研究成果を学ぶ。								
講師名	農業大学校職員、外部講師						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	農場における飼養状況に応じて課題を取り上げ、ゼミ形式で肉用牛の飼養管理技術について知識・技術を習得させるとともに、最新の試験研究成果に関する知識を習得する。								
使用教材	日本標準飼料分析表、日本飼養標準（肉用牛）、講師作成資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）		受講態度（減点）		
	基準	講義ごとの試験・レポートにより評価			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1	各専攻の飼養管理マニュアル①					1	農業大学校職員		
2	各専攻の飼養管理マニュアル②					1			
3	各専攻の飼養管理マニュアル③					1			
4	肉用牛の疾病と対策①					1			
5	肉用牛の疾病と対策②					1			
6	子牛の疾病と対策					1			
7	肉用牛繁殖の給与設計					1			
8	肉用牛肥育の給与設計					1			
9	育成牛の給与設計					1			
10	子牛の給与設計					1			
11	試験①					1			
12	酪農の最新の試験研究と成果					1	外部講師		
13	試験②					1			
14	肉用牛の最新の試験研究と成果					1			
15	試験③					1			
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。								

令和6年度 授業計画書【シラバス】									
科目名	Y207r	乳用牛の飼養管理		学科名	畜産学科	学年	2年	学期	前期
授業の方法	演習	区分	履修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～7月
科目の概要	農場における飼養状況に応じて課題を取り上げ、乳用牛の飼養管理技術について知識・技術とともに、最新の試験研究成果を学ぶ。								
講師名	農業大学校職員、外部講師						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	農場における飼養状況に応じて課題を取り上げ、ゼミ形式で乳用牛の飼養管理技術について知識・技術とともに、最新の試験研究成果に関する知識を習得する。								
使用教材	日本標準飼料分析表、日本飼養標準（乳用牛）、講師作成資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			受講態度（減点）	
	基準	講義ごとの試験・レポートにより評価			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為 等	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1	酪農専攻の飼養管理マニュアル①						1	農業大学校職員	
2	酪農専攻の飼養管理マニュアル②						1		
3	酪農専攻の飼養管理マニュアル③						1		
4	乳牛の疾病と対策①						1		
5	乳牛の疾病と対策②						1		
6	子牛の疾病と対策						1		
7	搾乳牛の給与設計①						1		
8	搾乳牛の給与設計②						1		
9	子牛・育成牛の給与設計③						1		
10	乾乳牛の給与設計④						1		
11	試験①						1		
12	酪農の最新の試験研究と成果						1	外部講師	
13	試験②						1		
14	肉用牛の最新の試験研究と成果						1		
15	試験③						1		
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。								

令和6年度 授業計画書〔シラバス〕										
科目名	Y207b	豚の飼養管理			学科名	畜産学科	学年	2 年	学期	前期
授業の方法	演習	区分	履修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～7月	
科目の概要	農場における飼養状況に応じて課題を取り上げ、豚の飼養管理技術について知識・技術とともに、最新の試験研究成果を学ぶ。									
講師名	農業大学校職員、外部講師							実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	農場における飼養状況に応じて課題を取り上げ、ゼミ形式で豚の飼養管理技術について知識・技術を習得させるとともに、最新の試験研究成果に関する知識を習得する。									
使用教材	日本標準飼料分析表、日本飼養標準（豚）、講師作成資料									
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			受講態度（減点）		
	基準	講義ごとの試験・レポートにより評価			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）										
回	内 容						時間	備 考		
1	種雌豚の繁殖管理（基本管理、発情・交配適期、妊娠鑑定等）						1	農大校職員		
2	種雌豚の繁殖管理（基本管理、繁殖サイクル、人工授精等）						1			
3	候補豚の管理（馴致手法、母豚群免疫安定化、候補豚選抜等）						1			
4	哺乳豚の管理（基本管理、ワクチン・抗生剤、AI・A0等）						1			
5	肥育豚の管理（基本管理、疾病管理等）						1			
6	試験①						1			
7	豚の選抜、交配及び能力検定						1	外部講師		
8	豚の選抜、交配及び能力検定						1			
9	試験②						1			
10	高付加価値豚肉生産及びエコフィード活用事例の実践						1	外部講師		
11	高付加価値豚肉生産及びエコフィード活用事例の実践						1			
12	試験③						1			
13	豚に関する最新の試験研究と成果 場所：畜産試験場川南支場						1	畜産試験場職員		
14	豚に関する最新の試験研究と成果						1			
15	試験④						1			
授業時間外に必要な学修	特になし									
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。									

令和6年度 授業計画書 [シラバス]												
科目名	Y208	豚の疾病と衛生		学科名	畜産学科	学年	2 年	学期	全期			
授業の方法	講義	区分	履修	単位数	1	時間数	15	開講時期	6月～1月			
科目の概要	豚疾病の種類とその予防・治療方法及び養豚現場におけるバイオセキュリティ対策について学ぶ。											
講師名	外部講師						実務経験のある教員等による授業科目					
到達目標	繁殖性向上のための最新の考え方を習得する。											
使用教材	講師作成資料											
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）		受講態度（減点）					
	基準	講義ごとの試験・レポートにより評価			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為 等					
授業の計画（授業の回数やスケジュール）												
回	内 容					時間	備 考					
1	養豚現場におけるバイオセキュリティの実際					1	担当講師： 宮崎家畜保健衛生所衛生指導担当リーダー					
2	養豚現場におけるバイオセキュリティの実際					1						
3	試験①					1						
4	交配・妊娠豚舎の管理					1	担当講師：NOSAI連宮崎					
5	交配・妊娠豚舎の管理					1						
6	分娩舎の飼養管理①（分娩・出生～初乳）					1						
7	分娩舎の飼養管理①（分娩・出生～初乳）					1						
8	分娩舎の飼養管理②（哺乳開始～離乳）					1						
9	分娩舎の飼養管理②（哺乳開始～離乳）					1						
10	子豚・肥育豚の飼養管理					1						
11	子豚・肥育豚の飼養管理					1						
12	疾病の予防対策（ワクチンを中心に）					1						
13	疾病の予防対策（ワクチンを中心に）					1						
14	疾病の治療					1						
15	試験②					1						
授業時間外に必要な学修	特になし											
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。											

令和6年度 授業計画書 [シラバス]									
科目名	Y302	削蹄講習 (2年間履修)		学科名	畜産学科	学年	1～2年	学期	1－2全
授業の方法	演習	区分	履修	単位数	2	時間数	30 (1年次9) (2年次21)	開講時期	(1年次)1-2月 (2年次)6-7月
科目の概要	家畜の削蹄の必要性とともに削蹄技術を学ぶ。								
講師名	宮崎県削蹄師協会：曾我政範氏、公益社団法人日本装削蹄協会							実務経験のある教員等による授業科目	
到達目標	・削蹄の技術を習得する。 ・2級認定削蹄資格を取得する。								
使用教材	・牛削蹄入門 ・講師準備資料								
成績評価	方法	知識（40点）		技能・技術（40点）		出席率（20点）		受講態度(減点)	
	基準	講習会試験の採点による。		講師の採点による。		出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・80%未満 0		20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為 等	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1～2	削蹄の基礎について					2	担当講師：宮崎県削蹄師協会 1年次		
3～9	削蹄実習（基礎）					7			
10～11	削蹄の応用について					2	担当講師：宮崎県削蹄師協会 2年次		
12～18	削蹄実習（応用）					7			
19～23	削蹄講習会（削蹄基礎知識）					5	担当講師：日本装削蹄協会 (削蹄講習会)		
24	削蹄講習会（削蹄基礎知識 試験）					1			
25～26	削蹄講習会（削蹄の基礎について）					2	担当講師：日本装削蹄協会 (削蹄講習会)		
27～30	削蹄講習会（削蹄 実技試験）					4			
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則して補習は実施しない。								

令和6年度 授業計画書[シラバス]									
科目名	F201	専攻実習Ⅱ(フ)		学科名	フードビジネス 専攻	学年	2年	学期	全期
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	10	時間数	300	開講時期	4月～1月
科目の概要	様々な手法により農産物、畜産物の加工を行い、加工に関する基礎知識と技術を学ぶ。 プロジェクト課題に沿った課題解決研修に取り組み知識や技術の習得を図る。 農場での原料栽培にかかる現場実習から加工・販売までの一連の流れを実習を通して修得する。								
講師名	農学科 フードビジネス専攻 畜産学科 フードビジネス専攻							実務経験のある教員 等による授業科目	
到達目標	・農産物、畜産物の生産現場での実習を通して、加工技術だけでなく、栽培から加工、販売までのフードビジネスに関連した知識と技術を習得する。 ・プロジェクト課題に沿った課題解決研修に取り組み知識や技術の習得を図る。 ・食品や器具機材の取り扱い、衛生管理にかかる基礎知識を身につけ、加工から販売までの一連の流れを理解する。								
使用教材	食品製造実習関連資料、生産に関する資料								
成績評価	方法	知識（４０点）		技能・技術（４０点）		出席点（２０点）		学習態度（減点）	
	基準	農産物、畜産物を使った商品開発を通して加工知識や技術の習得を判断する。 プロジェクト課題に沿った取組状況や知識や技術の習得状況で判断する。 農場での実習による知識や技術の習得状況で判断する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			授業中の態度をA・B・Cの3段階で評価し、２０点を上限として以下の係数を乗じて減点する。 A：問題のない実習態度 0 B：注意を受けたが改善 0.5 C：改善なし 1.0	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1～60	農大の農畜産物の栽培・飼養管理現場での実習（プロジェクト活動と関連した取組、加工・製造の原料となる農畜産物の生産現場で体験実習を行う）					60			
61～100	農大産の作物を使った焼菓子、そうざい製造					40			
101～130	農大産の作物を使ったジャム類（イチゴ、マーマレード等）の製造					30			
131～170	農大産の牛乳を使ったアイスクリーム、乳製品の製造					40			
171～210	ベーコン、ソーセージ、燻鶏等の肉加工品製造					40			
211～300	プロジェクト学習に関連した加工実習					90			
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として補講は行わないが、特別な事情がある場合は時間外に補講を認める。								

令和6年度 授業計画書[シラバス]									
科目名	F202	専攻特別実習Ⅱ		学科名	フードビジネス専攻	学年	2年	学期	全期
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	4	時間数	120	開講時期	4～12月
科目の概要	フードビジネス専攻において必要な資格取得に関する学習や学生模擬会社の販売実習、専攻での特別講義等を行う								
講師名	農学科 フードビジネス専攻 畜産学科 フードビジネス専攻							実務経験のある教員等による授業科目	
到達目標	資格取得のための講習により高度な知識を身につけると共に、学生出資会社の販売活動などを通じて、社会的な実践力を身につける。								
使用教材	資格取得のためのテキスト								
成績評価	方法	知識（40点）	技能・技術（40点）	出席点（20点）			学習態度（減点）		
	基準	専攻特別実習に関する記録簿の記入状況と活動内容の確認により評価する。		出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			授業中の態度をA・B・Cの3段階で評価し、20点を上限として以下の係数を乗じて減点する。 A：問題のない実習態度 0 B：注意を受けたが改善 0.5 C：改善なし 1.0		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
月	内 容						時間	備 考	
4月	資格取得のための学修、学生出資会社 販売実習、校外研修等						10		
5月	資格取得のための学修、学生出資会社 販売実習、校外研修等						15		
6月	資格取得のための学修、学生出資会社 販売実習、校外研修等						15		
7月	資格取得のための学修、学生出資会社 販売実習、校外研修等						15		
8月	資格取得のための学修、学生出資会社 販売実習、校外研修等						10		
9月	資格取得のための学修、学生出資会社 販売実習、校外研修等						15		
10月	資格取得のための学修、学生出資会社 販売実習、校外研修等						10		
11月	資格取得のための学修、学生出資会社 販売実習、校外研修等						20		
12月	資格取得のための学修、学生出資会社 販売実習、校外研修等						10		
授業時間外に必要な学修	1年間で取得する資格等を決定し、準備する。								
再試験及び補習対象の実施基準	時間外実習の時間が不足する場合、休業期間中に時間外実習を行う。								

令和6年度 授業計画書[シラバス]									
科目名	T207 F203	会社経営Ⅱ (フード必修・他選択)		学科名	全学科 フードビジネス	学年	2年	学期	全期
授業の方法	講義	区分	選択(フ以外) 必修(フ)	単位数	2	時間数	30	開講時期	4～1月
科目の概要	農大の模擬会社を教材に、会社経営計画や販売計画などを学ぶ。								
講師名	農学科 フードビジネス専攻 畜産学科 フードビジネス専攻 外部講師						実務経験のある教員 等による授業科目		
到達目標	・会社経営に関する基礎知識を身につける。 ・模擬会社の運営及び経理について理解する。								
使用教材	講師準備資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席点（10点）		学習態度（減点）		
	基準	学生出資会社の運営に関する意見交換会やグループで行う経営ゲームへの取り組みによる経営知識の習得状況を受講後のレポート内容により評価する。決算書の読み取りなど経理に関する知識の習得状況について評価テストを行い評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		授業中の態度をA・B・Cの3段階で評価し、20点を上限として以下の係数を乗じて減点する。 A：問題のない授業態度 0 B：注意を受けたが改善 0.5 C：改善なし 1.0		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1	学生出資会社に関する各組織ごとの運営方法 今年度の経営目標、総会資料より						1		
2	模擬会社に関する研究（経理状況の確認（各専攻ごと））						1		
3	イベント販売等(農大市他)の準備、運営方法に関する学習						1		
4	模擬会社に関する研究 (契約書類に関すること、販売計画の立て方について)						1		
5	模擬会社に関する各組織の運営方法について						1		
6	模擬会社に関する研究（模擬会社の概要について）						1		
7～9	模擬会社に関する研究						3		
10	イベント販売等(農大市他)の準備、運営方法に関する学習						1		
11	イベント販売等(農大市他)の準備、運営方法に関する学習						1		
12～14	模擬会社に関する研究						3		
15	R6年（第7期）上半期決算状況について						1		
16	ビジネスマナー①（演習）						1		
17	ビジネスマナー②（演習）						1		
18	外部講師（講演） ふるさと納税について 高鍋町役場 財政経営課 ふるさと納税担当者						1		
19	【1,2年合同】会社経営について 農大祭に向けた商品ディスプレイの手法、POP作成におけるポイントについて①						1		
20	【1,2年合同】会社経営について 農大祭に向けた商品ディスプレイの手法、POP作成におけるポイントについて②						1		
21	会社経営について(講演) 農大祭に向け参考となる内容 商品ディスプレイの手法、POP作成におけるポイント他 外部講師						1		
22	会社経営について(講演) 農大祭に向け参考となる内容 商品ディスプレイの手法、POP作成におけるポイント他 外部講師						1		
23	会社経営について(講演) 農大祭に向け参考となる内容 商品ディスプレイの手法、POP作成におけるポイント他 外部講師						1		
24	【1,2年合同】 11月農大祭の準備、運営方法について						1		
25	【1,2年合同】 11月農大祭の準備、運営方法について						1		
26	【1,2年合同】 11月農大祭の準備、運営方法について						2		
27	【1,2年合同】 学生出資会社の新役員体制づくり						1		
28	【1,2年合同】 学生出資会社の定時株主総会について						1		
29～30	【1,2年合同、全学生対象】令和5年度 定時株主総会						2		
授業時間外に必要な学修	専攻ごとに販売実績について情報収集を行い、売上向上に向けて研究する。								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として再試、補講は認めない。								

令和6年度 授業計画書[シラバス]									
科目名	F204	食品関連企業実習		学科名	フードビジネス専攻	学年	2年	学期	後期
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	2	時間数	60	開講時期	9～10月
科目の概要	食品関連企業での実習を通じて、農大では達成できない高度な加工技術や商品開発について学ぶ。								
講師名	農業大学校 農学科フードビジネス専攻							実務経験のある教員等による授業科目	
到達目標	食品関連企業での実習を通して、高度な加工技術や商品開発について知見や経験を深める。								
使用教材	各企業が準備する資料								
成績評価	方法	知識（５０点）		技能・技術（４０点）		出席点（１０点）		学習態度（減点）	
	基準	食品関連企業からの評価票や毎日記入する実習日誌、研修レポート、研修報告発表会の内容から評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			授業中の態度をA・B・Cの3段階で評価し、２０点を上限として以下の係数を乗じて減点する。 A：問題のない実習態度 0 B：注意を受けたが改善 0.5 C：改善なし 1.0	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1～6	食品関連企業等での実習心構え、計画作成 研修企業の事前調査等						3	9月４日（水）４～６限	
7～54	食品関連企業実習						48	9月20日、24日、26日、 10月１日、４日、７日、 8日、10日 計８日×６時間	
55～57	研修まとめ・発表資料作成・お礼状						6	10月11日（金）４～６限 10月15日（火）４～６限	
58～60	発表						3	10月16日（水）４～６限	
授業時間外に必要な学修	実習先での研修日誌を作成すること。食品加工業の業績や内容を情報収集し、熟知した上で研修に参加すること。								
再試験及び補習対象の実施基準	食品関連企業からの評価表、毎日記入する実習レポートの内容から評価する。 不十分な者については、課題を与え、レポートを再提出させ、再評価する。								

令和6年度 授業計画書[シラバス]									
科目名	F205	農業生産工程管理Ⅱ		学科名	フードビジネス 専攻	学年	2年	学期	前期
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	6～7月
科目の概要	食品衛生法等の一部改正（H30年6月13日公布）により全ての食品等事業者は、原則としてHACCPに沿った衛生管理手法が必要となった。本科目では、食品製造における一般的衛生管理やHACCP、また、企業におけるFSSC22000等の食品安全システム認証について知識を深め、食の安全性に関して衛生管理や品質管理を徹底し安全・安心の商品を消費者に提供することの重要性を学ぶ。								
講師名	・外部講師 （株）HACCP ONE ・農業大学校フードビジネス専攻						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	学生が、農畜産物を利用した加工品を製造する中で、HACCPによる衛生管理やHACCPの考え方を取り入れた衛生管理計画に基づき、安全な食品製造の重要性について理解することを到達目標とする。								
使用教材	・講師が準備する資料 ・HACCPの考え方を取り入れた衛生管理のための手引書（発行：厚生労働省）								
成績評価	方法	知識（90点）			出席点（10点）			学習態度（減点）	
	基準	レポート及び講義終了後にテストを行い、知識の習得状況により評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			授業中の態度をA・B・Cの3段階で評価し、20点を上限として以下の係数を乗じて減点する。 A：問題のない実習態度 0 B：注意を受けたが改善 0.5 C：改善なし 1.0	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1～3	食品製造における衛生管理について 一般的衛生管理項目 小テスト						3		
4～6	食品製造における品質管理について 農大の食品加工室における衛生管理について 小テスト						3		
7～9	農大における衛生管理プラン作成指導 小テスト						3		
10～12	食品加工エリアの衛生管理・整理整頓に関する具体的事例研究						3		
13～15	テスト及びレポート						3		
授業時間外に必要な学修	予習、復習及び小テストでの反復学習								
再試験及び補習対象の実施基準	管理運営要領の特別な事情に当たる場合以外、原則として再試験は実施しない。								

令和6年度 授業計画書[シラバス]									
科目名	G206	食品化学Ⅱ		学科名	フードビジネス専攻	学年	2年	学期	前期
授業の方法	講義	区分	履修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4～9月
科目の概要	食品製造における重要管理点（CCP）を科学的根拠に基づき監視するため、測定機器（水分活性装置、pH測定、ルミテスター等）の使用方法について学ぶ。また、味覚（5味）や官能評価の方法について知識を深め、安全で消費者嗜好に基づく商品開発に関する知識を深める。さらに食べ物のおいしさを左右する調理と酵素の関わりについて学ぶ。								
講師名	外部講師 食品加工技術アドバイザー 農学科 フードビジネス専攻						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	食品製造における危害要因や重要管理点を理解し、科学的根拠に基づく監視方法を学ぶため、測定機器の取扱方法を身に付ける。また、商品の官能評価方法など基礎的な知識を身につける。								
使用教材									
成績評価	方法	知識（90点）			出席点（10点）			学習態度（減点）	
	基準	講義終了後、レポートにより評価する。評価テストを実施し、評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			授業中の態度をA・B・Cの3段階で評価し、20点を上限として以下の係数を乗じて減点する。 A：問題のない受講態度 0 B：注意を受けたが改善 0.5 C：改善なし 1.0	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1	食品製造における重要管理点（CCP）と科学的根拠の測定 ・食品包装資材について						1	5月13日(月) 1 限 調理室	
2～3	食品製造における重要管理点（CCP）と科学的根拠の測定 ・食品が劣化する要因と品質保持						2	5月15日(水) 4～6限 調理室	
4～6	食品製造における重要管理点（CCP）と科学的根拠の測定 ・工程・品質管理に用いられる機器類を使用した演習 （糖度、塩分、PH、水分活性）						3	5月20日(月) 1～2限 第1教室	
7～9	食物の酵素に関する実験 ・さつまいもの加熱方法の違いによる甘味の変化に関する実験						3	5月31日(金) 4～6限 調理室	
10～12	官能評価 ・5味の識別試験 ・味覚による閾値の測定						3	6月6日(木) 4～6限 調理室	
13～14	食品製造における衛生管理の数値化 ・ルミテスターによる衛生チェック						2	6月11日(火) 4～5限 農産加工室	
15	テスト						1	6月11日(火) 6限 調理室	
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として再試及び補講は行わないが、特別な事情がある場合は時間外に補講を認める。								

令和6年度 授業計画書[シラバス]										
科目名	G207		食品製造実習Ⅱ		学科名	フードビジネス専攻	学年	2年	学期	全期
授業の方法	実習	区分	履修	単位数	3	時間数	90	開講時期	4～1月	
科目の概要	農産物、畜産物を使った加工技術の習得を通して、商品開発の手法を学ぶ。									
講師名	畜産学科 フードビジネス専攻							実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	農産物、畜産物の加工を行い、商品開発の知識及び製造技術を習得する。									
使用教材	食品製造実習関連資料									
成績評価	方法	知識（４０点）		技能・技術（４０点）		出席点（２０点）		学習態度（減点）		
	基準	農産物、畜産物を使った加工品を製造することにより加工技術の習得状況を判断する。				出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		授業中の態度をA・B・Cの3段階で評価し、２０点を上限として以下の係数を乗じて減点する。 A：問題のない実習態度 0 B：注意を受けたが改善 0.5 C：改善なし 1.0		
回	内 容						時間	備 考		
1～12	加工室、加工器具類の取り扱い説明 食品衛生に関する基礎知識(加工室の冷蔵庫温度管理、加工室の細菌検査等) 食品表示に関する基礎知識（加工品のラベル作成等）						12			
13～32	農大産の野菜・作物の加工品製造（ピューレ、パウダー製造） 農大産の小麦の加工品製造（パン、焼き菓子等） 農大産の果実の加工品製造（ドライフルーツ、グミ等）						20			
33～68	農大産の畜産物を使った肉加工品、乳加工品の製造とHACCPシステムに基づく製造工程の検証（ベーコン、ソーセージ、チーズ、アイスクリーム等）						36			
69～84	プロジェクト学習に関連した加工品製造実習						16			
85～90	農大産の農畜産物を使った加工品製造実習（各自製造）						6			
授業時間外に必要な学修	特になし									
再試験及び補習対象の実施基準	原則として補講は行わないが、特別な事情がある場合は時間外に補講を認める。									

令和7年度 授業計画書【シラバス】									
科目名	265	フードビジネスⅡ		学科名	フードビジネス専攻	学年	2年	学期	前期
授業の方法	講義	区分	履修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4～9月
科目の概要	国や宮崎県内におけるフードビジネスに関する施策等について学ぶ。 農業大学校で生産される農産物を題材に用い、L F P（ローカルフードプロジェクト）において必要となる地域の食と農の振興の核となる農畜産物の加工及び商品化に必要な知識を習得する。								
講師名	外部講師（公財）宮崎県産業振興機構 フードビジネス相談ステーション 外部講師 宮崎県食品加工技術アドバイザー 農業大学校 フードビジネス専攻 教授						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	国や宮崎県内におけるフードビジネスに関する施策等について学ぶことで、L F P（ローカルフードプロジェクト）において必要となる農畜産物の加工に関する知識や課題解決能力が身につく。 農業大学校で生産される農産物を題材に用い、地域の食と農の振興の核となる農畜産物の加工及び商品化に必要な知識を習得する。								
使用教材	講師が配布する資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席点（10点）		学習態度（減点）		
	基準	講義後にレポートを提出する。レポート内容や提出状況と後半に行う事業計画の作成により知識の習得状況を把握し評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		授業中の態度をA・B・Cの3段階で評価し、20点を上限として以下の係数を乗じて減点する。 A：問題のない授業態度 0 B：注意を受けたが改善 0.5 C：改善なし 1.0		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1～3	農大産農産物を原料にした製造実習① 柑橘類の一次加工技術について理論と製造					3			
4～6	農大産農産物を原料にした製造実習②					3			
7～9	農大産農産物を原料にした製造実習③					3			
10～12	農大産農産物を原料にした製造実習②					3			
13	国や宮崎県内におけるL F P（ローカルフードプロジェクト）に関する施策等について					1			
14～15	事業計画の作成演習、発表、まとめレポート作成					2			
授業時間外に必要な学修	事業計画作成に向けた、資料準備								
再試験及び補習対象の実施基準	レポート提出が合格点に達しない場合は、合格点に達するまで再提出させる。								

令和6年度 授業計画書[シラバス]										
科目名	G209		微生物活用Ⅱ		学科名	フードビジネス専攻	学年	2年	学期	前期
授業の方法	講義・演習		区分	履修	単位数	1 単位	時間数	15時間	開講時期	4～9月
科目の概要	農大農場の生産現場を学び、そこで生産される農畜産物を原料とし微生物を活用した食品の加工を学ぶ。									
講師名	農学科 フードビジネス専攻 畜産学科 フードビジネス専攻							実務経験のある教員等による授業科目	○	
到達目標	・微生物を使った食品・醗酵食品の歴史、種類を理解する。 ・実験・実習を通し、微生物を使った食品製造技術を習得する。									
使用教材	講師準備資料・植物材料・実験施設設備・実験器具・実験機器・試薬他									
成績評価	方法	知識（90点）			出席点（10点）			学習態度（減点）		
	基準	各講義・演習においてレポートを提出し、内容で評価する。 講義後に、評価テストを実施する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			授業中の態度をA・B・Cの3段階で評価し、20点を上限として以下の係数を乗じて減点する。 A：問題のない授業態度 0 B：注意を受けたが改善 0.5 C：改善なし 1.0		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）										
回	内 容						時間	備 考		
1～3	微生物を活用した食品について 【ぬか漬】 農大産の米ぬかや野菜類を原料にぬか漬を製造						3			
4～9	微生物を活用した食品について 【天然酵母】 天然酵母の製造（農大産の農産物を活用）パン製造 天然酵母の製造（農大産の農産物を活用）パン製造						6			
10～12	微生物を活用した食品について 【甘酒】 麹 糸状菌カビの一種を活用した食品 【ヨーグルト研修に向けた事前研修＝畜産学科 酪農舎での現場実習】						3			
13～15	微生物を活用した食品について 【ヨーグルト】 種菌について, 生乳の殺菌について						3			
	評価試験									
授業時間外に必要な学修	特になし									
再試験及び補習対象の実施基準	○管理運営要領の特別な事情に当たる場合以外、原則として再試験は実施しない。									

令和6年度 授業計画書[シラバス]									
科目名	G210	マーケティングⅡ		学科名	フードビジネス専攻	学年	2年	学期	全期
授業の方法	講義	区分	履修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4～10月
科目の概要	本講座では、企業の伴走支援を受け、農畜産物加工品の商品開発・販売のための演習を行う。商品の試作・製造だけでなく、マーケティング、商品デザイン、販売戦略、原料調達などの一連の工程を網羅的に学修・実践する。 また1年生時に計画した商品企画、マーケティング・販売戦略等を円滑に実行する手法を学ぶ。								
講師名	外部講師：ミツイシ株式会社 県立農業大学校フードビジネス専攻						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	1年時に、企業が実際に行う商品開発に準じた手法を学修し、2年生時に、複数回、試行・改善しながら、商品開発・販売の実践力を身に付ける。								
使用教材	講師が準備する資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席点（10点）		学習態度（減点）		
	基準	講義後に行う発表とレポートを提出し内容で評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		授業中の態度をA・B・Cの3段階で評価し、20点を上限として以下の係数を乗じて減点する。 A：問題のない授業態度 0 B：注意を受けたが改善 0.5 C：改善なし 1.0		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1	商品企画に対する現状分析・課題整理・目標設定 ・1年生1～3月のマーケティング・試作に関する活動報告及び年間計画						3		
2	課題・最終目標に対する進捗・検討 ・1年生時に設定した課題・最終目標の進捗確認 （スライド2枚以内で発表、質疑応答）						3		
3	商品企画に対する中間評価 ・試作品に対する進捗報告 ・原料調達と加工、製法について進捗報告 （スライド3枚以内で発表、質疑応答）						3		
4	マーケティング戦略に対する中間評価 ・これまでにを行ったマーケティング活動報告及び効果検証 （スライド3枚以内で発表、質疑応答）						3		
5	これまでの振り返り、最終発表 （プロジェクト中間発表後に別途検討会を設ける。						3		
授業時間外に必要な学修	演習を基本とし、商品試作・製造やマーケティング活動に関する実習時間は別途設ける。								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として、再試・補講は認めない。								

令和6年度 授業計画書[シラバス]										
科目名	G211		新商品開発		学科名	フードビジネス専攻	学年	2年	学期	前期
授業の方法	講義・演習		区分	履修	単位数	2	時間数	30	開講時期	5～9月
科目の概要	農大で生産される農畜産物のうち定番となる品目を原料に、テーマを設定し、その原料の特性を実験を通して科学的に理解しながら新商品開発を行う。新商品を開発する上で発生する技術的な課題を解決するためのプロセスを学び、プロジェクト活動とは別に、自ら商品を生み出す実践力を身につける。									
講師名	外部講師 宮崎県食品加工技術アドバイザー 農学科 フードビジネス専攻								実務経験のある教員等による授業科目	
到達目標	新商品開発のプロセスを学ぶとともに、技術的な課題を科学的に解決する方法を身につける。また得られた実験データから客観的に考える力を習得する。									
使用教材	講師が配付する資料									
成績評価	方法	知識（90点）			出席点（10点）			学習態度（減点）		
	基準	農産物、畜産物を使った商品開発を通して製造技術の習得を判断するとともに、レポートにより評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			授業中の態度をA・B・Cの3段階で評価し、20点を上限として以下の係数を乗じて減点する。 A：問題のない授業態度 0 B：注意を受けたが改善 0.5 C：改善なし 1.0		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）										
回	内 容						時間	備 考		
1	新商品開発について（1） 情報収集と商品設計						1	5月14日（火）1限 第1教室		
2～3	新商品開発について（1） レシピ作成と試作						2	5月22日（水）2～3限 農産加工室		
4～5	新商品開発について（1） 試作						2	5月27日（火）1～2限 農産加工室		
6～7	新商品開発について（1） 試作および品質評価、販売形態検討						2	5月29日（水）2～3限 農産加工室		
8～9	新商品開発について（1） 賞味期限設定および表示作成						2	6月12日（水）2～3限 調理室		
10～11	新商品開発について（1） テスト販売						2	7月19日（金）2～3限 農産加工室		
12～14	新商品開発について（2） テーマ：米粉 製パン試験およびグルテン抽出試験						3	7月26日（金）4～6限 農産加工室		
15～20	新商品開発について（2） テーマ：米粉 米粉パン実習						6	7月29日（金）1～6限 農産加工室		
21～26	新商品開発について（2） テーマ：米粉 米粉パン実習						6	9月6日（金）1～6限 農産加工室		
27～30	新商品開発について（2） テーマ：米粉 米粉パン実習およびレポート作成						4	9月18日（水）2～5限 農産加工室		
授業時間外に必要な学修	特になし									
再試験及び補習対象の実施基準	補講や再試験は実施しない。									